

新刊



著 枝 光 島 小

特220  
141  
買笑問題と女性

行發 社生更本日大 京東

2



\* 0038325000 \*

0038325-000

特220-141

売笑問題と女性

小島光枝・著

大日本更生社

4版

昭和12

AGG

この著作物は、著作権者不明のため、著作権  
第67条の規定に基づき、平成12年3月  
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するも

340

特220  
14)



小島光枝著

賣笑問題と女性

大日本更生社發行



## 序

著しい文化の發達は、近代人の科學智識を廣め、國力増進の上に、非常な貢獻をなして居ります事は、如何に山間僻地と雖も、常に私共の目に映する事で誠に嬉しい事で御座います。然し乍ら此の限りなき發展の神國日本を支へる國民の確固たる精神力の重大性を考へねばならないのであります。

如何に物質文化が、進歩發達を遂げましても國民の精神に缺陷がありましては國運の永遠性のない事は申す迄ありません、私共は始終茲に留意致しまして子弟教育の萬全を期さなければならぬのであります。

子弟教育には科學の力も勿論必要であります、更に大乘的宗教情操の加味が必須條件でありまして、殊に柔和を特質とする女子の教育には一層深く感じさせられるのでありま

す。日々の新聞記事を賑わす社會問題には必ず女性が對照となり又、幾多の美談、立志傳の裏にも貴い女性の内助の功が伴つてゐる事を考へます時、可弱い女性の一舉一動程、良きに、悪しきに、全人類社會を左右するものはないのであります。

此の重大な岐路に立つ我國の女性は國を擧げて庶政一新の叫ばれる秋に再會致しました今日、徒らに文化に陶醉せず、風美に憧れず各々天賦の使命に向つて邁進しなければならぬのであります。

今回小島女史が執筆された本書は宗教原理を骨子として、此の點を強調され、尙今日迄符問にふされてゐた社會問題を紹介されてゐる事は、子弟教育の參考資料とし、青年子女及浮薄な人士の覺醒を計る意味に於て大いに得る處ありと信じて疑はないのであります。

## 松平 夕子

## はしがき

淑徳、謙讓を以つて本質とする日本女性の立場から賣笑問題を語る事は餘りにも不自然な様ではあります。今日迄一部の男性に依つて討議せられてゐる賣笑論或は廢娼を強調されてゐる一部女性の觀點とは聊かその趣を異にする爲女性の立場として矛盾を感じる處が多々ある事は本書執筆の上に私自身が痛感してゐる事で讀者諸氏にも單に理想のみの解釋から本書を批判された場合は日本女性のプライドを傷ける如く曲解されないと限りません。然し私自身も日本女性でありますから同性の價値はより強く尊重してゐる者で、女性の本質を眞に生かし、更に腐敗せる社會を清淨したい氣持から一切の美辭、麗句を除き極めて卒直に私見を呈し誤られたる社會通念を一掃し、明るい社會の實現の一助にもなれば内助を以つて本質とする女性の本分も立つものと、心得へ非文をも不省敢て筆を取つた譯であります。

賣笑問題の最も中心となつてゐるものは、申上げる迄もなく四十有餘年國際聯盟を背景

として、提唱されて居りました、公娼制度廢止問題でありませう。理論の可否は本文に譲ると致しまして、熱心な廢娼論者の鬭争は相當効果を表はし、全國婦人の輿論であると言ふが如きデマさへも飛び、直接、間接に社會人の興味を引いたのであります。だが私は明るい社會と眞に兩性の純潔を計る事は、單に公娼制度の廢止のみによつて得られるものでなく、今、歩突き進んで複雑な社會の表裏を検討し、其の痛を切開しなければ、決してその實が擧がるものでなく、又立法國としての體面も確立しないものと考へまして、茲に實際問題を、私自身の研究と現社會の實狀から綜合して、本書を纏めたのでありますから、問題の前後、補正の點は充分御了承の上御精讀の程御願ひいたします。

「賣笑問題と女性」發刊に際し、簡單乍ら不備不全な點を幾重にも御詫び申上げる次第であります。幸ひに本書の中から皆さんに何ものかを見出して戴ければ私の辛苦も酬われこよなき幸せと存じます。

昭和十一年十一月

目黒庵にて

著者しるす

## 賣笑問題と女性 …… 目 …… 次

### 第一章

- 一、男女の特質と子弟教育…………… 一
- 一、農村青年と文化の憧憬…………… 四
- 一、男子の墮落と女性の悩み…………… 八
- 一、遊廓の存在と家庭婦人…………… 一四
- 一、初めて遊女に會つた同性の感觸…………… 一八
- 一、遊廓組合と娼妓の關係…………… 三三

### 第二章

- 一、ネオンの蔭に踊る魔手…………… 三五
- 一、彼女の貞操は斯くして奪はれる…………… 五九

- 一、教育萬能の裏面に此の醜體……………四
- 二、巧みな吸血鬼の搾取手段……………五
- 一、賣笑の發生と其の動機……………五
- 一、私娼窟の罰金と營業者の觀念……………六

### 第三章

- 一、私娼窟抱へ入れとその手段……………七
- 一、廢娼縣下の情勢と實例……………七
- 一、身賣防止と酌婦の激増……………七
- 一、賣笑婦を作る廢娼運動……………七
- 一、女性の貞操と經濟組織……………八
- 一、廢娼運動の目的奈邊にありや……………八
- 一、教育上の見地から……………九  
制度廢止は非國民の製造である……………九

### 第四章

- 一、廢娼論者によつて作られた公娼……………九
- 一、キリスト教と公娼及佛教の眞理……………九
- 一、國家の赤字とモグリ營業……………一〇
- 一、公娼廢止と輿論の眞相……………一〇
- 一、公娼制度は人身賣買に非ず……………一〇
- 一、賣笑婦と亡國病……………一一
- 一、上層階級の墮落と藝妓……………一二

### 第五章

- 一、藝妓、私娼に對する措置……………一七  
解決具體案……………一七
- 一、女給の制限と取締方法……………一三
- 一、總括的解決手段……………一四

- 結 論……………一六

# 賣笑問題と女性

小島光枝著

## 第一章

### 男女の特質と子弟教育

社會は申す迄もなく男女の相互組織でありますから、凡ゆる問題に女性が關聯して居ります事は當然な事ではありますが、昔から女性の功德は男子のそれに比して餘り讚美されなく、それに反し悪い方からは必ず女性が引合ひに出されて居りました。今普通じての言葉ではありますが「犯罪の裏に女性あり」此の言葉は私達女子に取つては男性に對して大に抗辯を必要とする問題であります

が本書に於ては差控へる事に致しませう。兎に角之程女性は多くの犯罪の起因をなしてゐるのだと云ふ事を惟ふ時、私達女性程人智の進歩向上に重大な役割をなしてゐる者はないと言ふ事を自覺しなければならぬ譯です。尤も女子その者の直接犯罪もある事はありますが、之は極めて少數で、この點女子の柔和を表現してゐるものと云ひ得られ、同時に男子に比して誇るに足る點であると思ひます。尤も最近男子間の酷評の的となつた、妖婦阿部定の如き犯罪は、同性として洵に恥づ可き事實ではありませんが、然し彼女の場合は人道を喪失した、所謂精神異常者でありますから敢て深く拘泥する必要はなく、又男子その者も評する必要はないかと考へます。只彼女の生立ちから三十一歳の其の日迄の私生活を考究致しまして、子弟の養育に充分の注意を拂はなければならぬ事は教育者及父母の察知した事實であると思はれます。

聊か本論よりそれましたが之に依つて讀者諸氏は、女子が如何に社會の動向に對し重大な指針であるかを認識された事と思ひます。又同時に女性の存在を輕視してゐた男性の、女子に對する洞察が自然に變らねばならぬ事と思ひます。私達が子供の時代に母や姉に聞かされて、感傷的な娘心を強く打たれた有名な石童丸なんかも最も適切にかうした事を物語つてゐるものでありませう。

石童丸の母千里と加藤左衛門重氏の本妻かつら子との情痴争ひから重氏は出家し、一城は滅亡。

親子は離散しなければならなくなつた。斯うした話は古今東西偶々起る問題ですが、一家の浮沈が色情問題に基因することは誠に遺憾とする處で、此の點は男女共に留意しなければならぬ事でありませう。

文化の發達に伴ひ東西思想が流れ込み、その影響から家庭教育が開放主義になつた爲青年男女の交際が自由になつた事に就いては、色々の理由から讚美する傾もありますが、私は此の點に就て甚だ遺憾に思ひますのは青年子女の不純な關係の多い事でありませう。

勿論、文化を阻止し、自由を排撃するものではなく寧ろ、より以上の發達と、より以上の明朗は望みたいのでありますが、只文化に酔ひ、自由に耽溺してはいけないのであつて、子弟教育上特に重點を置く可きではないかと思ふのであります。殊に最近の男女風紀問題に就て考へさせられる點は學校教育を多く受ける者、或は讀書熱の強い青年處女が、多く色情問題を惹き起してゐる事でありませう。

前者に就いて考察致しますと、現今學校教育が科學教育のみに偏し、修身教育に缺けてゐる事で淑徳の養成の充分でない事が其の原因をなしてゐるのでありまして、此の點は教育者よりも科學教育を盲目的に歡迎する社會人が大半その責を負ふ可きでありませう。



次に讀書による色情問題は多く軟文學の影響であります。之は作者が發賣政策を本意として戀愛問題を獵奇的に扱ひ、讀者と、その氣持を煽動してゐる事で、此の點は家庭教育者の注意を要す可き事であると思ひます。

新聞、雜誌によつて得る智識は相當大きなものでありますが、又反對に之によつて惡結果を見ると言ふ反對現象も見逃してはならぬ事實であります。

最近頻發する科學犯罪が、一度新聞の三面を賑はすと、遺憾な事ではありますが必ず類似した犯罪行爲が再發してゐる事であり、之等に就ては再發を防止する上に此の種の記事取扱に關し今少し考慮して戴きたいと思ひます。

尤もニュース、パアリウを尊重する新聞として止むを得ない點もありませんが、斯うした獵奇たつぷりの記事には必ず教育者とか或は宗教家とか言ふ人の意見、即ち後者を戒めると言つた文を以つて讀者の誘發を防ぐと言ふ事も必要ではありますまいか。

## 農村青年と文化の憧憬

直接、間接に文化そのものに接する機會の多い都會青年に對する、身教育に就きましたは、前項に述べました如くであります。特に考へなければならぬ問題は農村青年の教育であります。

軟弱な西洋文學によつて腐敗した、都會青年に比し、素朴な農村青年の勤勞こそ、非常時日本の支柱であらねばなりません。

然し乍ら文化の流れは山間僻地に迄滲み込んで稍もすると有爲の青年、處女を蝕まんとしてゐるのであります。その動機、或は墮落の行程は、都會への憧憬、新聞雜誌等の影響、酒色等各方面に分類する事が出来ますが、その中でも男女間の色情から來る墮落が一番多い様であります。従つて青年、子女に對する指導に於ては、都會青年と同じく修身教育を基礎として、農村教育を施さなければならぬのであります。自然の大氣に觸れて土に親しんでゐる田舎の青年は男女共に非常に純で、その上敬神、敬祖の念は都會の青年より遙かに優れて居りますから、宗教的に導くと言ふ事が効果的である様に思ひます。

私は今茲に、體驗による實例を述べて参考に供したいと思ひます。それは西國の一寒村に起つた事です。〇〇村に孤々の聲を上げた彼女の母と云ふのは非常に氣の弱い他人様には無口の方でありましたが、子供に對しては誠に嚴格で、常に忠孝物語りを以つて訓戒をされました、特に女の子供

に對しては貞節と言ふ事を、山内一豊の妻とか、或は曾我物語りとか常盤御前、お里、澤市と言つた調子でその善惡を實例を以つて全く耳の賑になる程話されましたが、その母も不幸にして彼女の十三歳の時他界し、父は子供達の爲後妻も迎へずに不自由な日を送られたのであります。

その内、母代りの長姉も他家へ縁付きましたので彼女は十七歳の兄と九歳の妹の面倒を見乍ら家業をいそしんで参りました。斯うした淋しい生活が幾年か續く中彼女も十六歳となり娘盛りと言ふ事になつたのであります。

妹は小學校に行き、父や兄は山畑の仕事に出掛けた後何時も彼女は只一人淋しい留守居をしてゐたのでありますが、扱てそうなると土地の青年、商人達が入り替り立替り誘惑にやつて参ります時には家人の不在を見越して暴力迄振つて肉迫してきた人さへありました。その度毎に亡き母の訓戒を思ひ出して、相手の名譽を傷けず無事に難をのがれて参りました。彼女は此の無學な農村青年の醜惡を現實に見て、智識階級への憧憬と家庭教育の肝要さを痛感致しました、然し智識階級への尊敬の念、即ち智識階級には斯した醜惡がないと信じてゐた娘の空想は間もなく根底から覆へされました。それは彼女が十八歳の時でした。隣村の某資産家の放蕩息子が仲介人を以つて彼女を嫁にと言ふ事でしたが律義者の父は、その青年の不身持ちを知つて居りますから斷然斷りました。だ

が運命のいたづらは父が彼女達の子供時代大洪水の爲田地が流され、その爲に或人から借財をしてゐたのが今娘の結婚の上に崇つて來たのであります。即ち父への貸主が、その放蕩息子の家にその債權を譲渡した爲にその青年の家と彼女の家に新なる貸借關係が生じ、今彼女の結婚問題とそれを交換條件として要求して來たのであります。再三、再四の争ひを繰り返へしましたが無産者の悲しさ遂に彼女は經濟的犠牲にならなければならぬ運命に到達致しました。

今は彼女も決心を致しまして亡き母の教訓を思ひ出し、貞節を旨として夫に仕へ、觀音の如き愛を以つて導けば、必ず夫も眞人間に立替へるだらうと、柄にもない考へを起し、自分自身が氣高くなつた様な氣分になつて結婚したのであります。

そこで母なき冷い家庭から幾分光明のある生活が始まつたのであります。妻の心盡しも、夫の放蕩時代の惡友の誘惑や、それに伴ふ祕密の金が、次からつぎへと現れて養父母の感情を歪め、傍杖を喰つて新妻迄が根も葉もない誤解を招き、散々な折檻を受けなければならなくなつたのであります。言ふ迄もなく家庭に波亂は絶間なく起り、夫は再び放蕩の群に足を入れる様になりました。流連人質、附馬、全く言語に絶した遊蕩の末、惡性の病毒に犯され遂に彼女迄も感染させられてしまひました。

養父母には誤解を受け、夫には見放されてゐる時でありますから、充分な治療も出来ず、次第に病勢は募り、關節炎、リウマチス、子宮内炎膜を引き起し、之が原因で彼女は脳神経衰弱になつてしまひました。

平和な農村娘に取つては餘りにも急激な變化であり、餘りにも無惨な體驗でありました。

## 男子の墮落と女性の悩み

天女の如き乙女の夢は不合理な結婚によつて破られ、更に清く抱いた新妻としての理想もそうした度ましきから、遊廓の存在は夫を奪ひ、財産を奪ひ、最後に健康を奪つてしまつたのであります。拙なき運命とは言ひ乍ら肉體的に精神的に、物質的に重なる辛苦の糸がもつれる程、遊廓は當時の彼女には恨みの的であつた事でありませう。

夜の灯と共にどんよとした行燈に書かれた樓名こそは言ひ知れぬ苦惱の種であつた事です。

そしてかくも薄命な女が地上にはどれだけ多く泣き濡れつゝ、生きてゐる事だらう。斯うした思ひが走馬燈の如く、彼女の頭に明滅する度毎に、家庭婦人の敵、否男性の敵、更に黄金の力に奔弄さ

れてゐる彼女等の爲に、一日も早く遊廓を打ち壊さなければならぬ、そして此の悲しむべき實話は遂に彼女をして鋭い廢娼論者となさしめたのであります。

彼女は結婚後僅か二ケ年にして餘りにも無惨な姿となつて解消の運命に遭遇したのであります。

彼女は幾度か死を以つて一切を清算せんと計りましたが、その度毎にやつれた婚家の亡父の軍服姿懐しき母の靈が驗れて彼女を護つてくれたのであります。世に靈魂不滅と言ひますが彼女こそその本當の體驗者でありませう。

斯くして肉身の愛は彼女の自我を没却せしめ、遂に宗教的信念に依つて更生せしめたのであります。

憂き事の尙此の上に積れかし

限りある身の力試めさん

然し彼女への辛苦は尙盡きなかつた、傷ついた體をさけて實家に戻り、貧しい乍らも、父の看護によつて養生を續け乍ら、信仰と修學に身を投じた彼女でありました。

幸ひにして性病は父の苦心で全治する事が出来たので、當時二十二歳の彼女は、求學の爲故郷を後に都に出たのであります。女性として晩學ではあるが、凡ゆる悩みの渦中から脱し得た彼女の努

力こそ、實に此の死を賭しての決心は徒食する多くの有閑人に、何ものかを強く與へてゐるのでは  
ありませんまいか？ 性病は治り得たと云へど、時候の變り目に起る内膜炎、神経痛で苦しめられ  
なければならぬ彼女には、更に經濟の苦しみ、之に附隨して起る都會人の誘惑がありました。都  
會の誘惑は農村のそれよりは一層激しい上に、言ふ迄もなく生活と言ふ大きな問題と併行して彼女  
に迫つたのであります。誘惑に打ち勝てば生活が打ち壊される。生活が立てば希望が中斷される  
今は希望、生活、誘惑此の三の中に戦はなければならぬ彼女でありました。然し此の渦巻こそ彼  
女に一層強い宗教的信念を與へたのであります。

斯うした尊い苦行は彼女をして社會の表裏を了知せしめ、更に墮落女性の原因、その動機を判然  
とさせた事は特筆する迄もない事でありました。

一、父母の保護と經濟力のなき女性性は、常に横暴な男性の情慾の爲に妨げられ尊き前途が遮斷され  
る事。

二、此の恐ろしき迫害は往々にして無産女性を墮落せしめ貞操を生活に代へる劣等な常識を植附け  
る事。

三、貞操を賣つて迄も希望を達せんとする穿き違へたインテリ女性のある事も總べて之等男性の狡

猾な手段が原因をなしてゐる事。

以上三項に分類して見まするにどの一項目にも、打ち破れた時は女性としてその價値は恐らく消  
失するの外はないのであります。

彼女の尊い生きた經驗は私にも又代へ難い智識ともなつたのであります。

以來私「筆者」は此の事實に感激して決然と起ち、惱める女性の爲に微力乍らも人事相談所を開  
設致しました。そして十五年の歲月が流れたのであります。勿論淺學、薄識の私でありますから、  
技巧や技策を弄する事は出来ませんでした。只私の個性である自己を殺して行く、……換言すれ  
ば一切の自我を排して宗教的信仰によつて此の惱める人々に幸福をあたへようと努めたのでありま  
す。この誠意が俗に言ふ天に通じたのか或ひは不幸な人々が餘りにも多かつた爲か？兎も角も此の  
貧弱な人事相談所は意外にも多忙を極めました。元より家事の片手間の仕事でありますから、相談  
に應じたからと言つて一文の金錢も要求は致しませんでした。然し他の營業と異つた斯様な仕事が多  
忙を極めると言ふ事は誠に悲しむ可き現象で、當時の私は相談者の來訪を受ける毎に胸の痛くな  
るのをどうする事も出来ませんでした。

然らば、一體どう言ふ人がどんな相談を持ち掛けて来るか？ 勿論多種多様であります。病苦、

經濟苦、夫の不品行、子女の不品行、繼母、養子等から人情的な苦惱等でありました。此の中でも病苦、經濟苦は相談者を満足せしむる事は比較的容易であります。人情問題は相談を受ける者にとつて援助される爲、一つのヒントを與へますと、悩み貫いてゐた女性が反對に更に大きな母性愛を現はして参りますから、圓滿に解決する事が多いのであります。一番難事は妻が愛する夫を他の女性に奪れた場合、即ち男子の妾狂ひ、之には相談者も一番困るのであります。よく新聞の相談欄なんかで實に明快な理論的解決を與へてゐるのを拜見致しますが、實際問題に觸れて見ますと方程式の様に簡単に片付けられるものではありませんし、又理論的には整然としてゐても、本人の氣持は決して満たされてゐるものでなく、その時は相談相手の口辯に説き伏せられ、うなづいては居りますが、再び家庭の敷居を股いだ時その悩みは一倍と深められてゐるのであります。

經濟と、時間に許された男子の特權、そして、妾を持つ惡習こそ、良妻賢母たる女性を苦しめ、子女の養育を傷付け、更に我國の家族制度の美風を破壊するものでありますから、世の男性は單に妻女の爲のみならず、國家の平和の爲、大いに自覺反省して戴き度いと思ひます。

母の斯した悩みは必ず子女に及ぼすものでありまして、不良少女、不良青年等に就いて研究致し

ますに、多く之等の子女は父母の愛慾争闘の時に體內にゐた者が多いのでありまして、如何に胎内教育が、生れ出る子女に、影響するかと言ふ事を明白に示してゐるのであります。

又一方に生活の手段とは言へ貞操を賣る女性に就いて研究して見ますと、二種類に分ける事が出来るのであります。

一、身分不相應な生活を得る爲に資本家の妾となり、私生兒を生んで得意となつてゐる者で、之等は虚榮心が強い爲、適當な縁談を忌避して、男子の資本や肩書に迷ひ自から求めたものが多い。

一、意志の薄弱から賣淫を拒み得ず家庭の犠牲となつてゐる者。

前者の場合、男性の不品行も大いに改めなければなりません。女性自からが反省しなければならぬ事は勿論であります。斯くの如き不徳の同性が激増した理由には今日の女子教育、即ち科學萬能の一大缺陷である事は否定出來ないのであります。具體的に申しますならば、女性の本質、機能を放棄して、只無暗に増長させたと云ふ事でありませぬ。此の流行的現象が中産、無産、インテリ階級に迄流れ込み、子女の不合理的な向上心が逆に墮落の原因となつたもので、此點に就いては教育者と共に一般國民も考へなければならぬ、重大な問題であります。

## 遊廓の存在と家庭婦人

人口の増加と文化施設の發達は花柳界にも均等の勢力と擴張の機を與へた爲、純心な一女性の結婚生活の上に迄大きな波紋を與へ、解消の運命に迄至らしめたのでありますが、限りなき肉親の愛と、燃ゆるごとき希望は、遂に彼女をして更生させた事は前章に述べました通りであります、更に彼女は獨身生活の危険と不合理を自覺して、再婚致しました。然し運命は又もや可弱き女性の生活を奪ひ去つたのであります。即ち彼女が結婚數年にして、三人の愛兒を殘し夫は死去したのであります。

路頭に投げ出された、母は三人の子女を養育しなければならぬと言ふ尊き母性愛から、婦人外交員として生活戦線に乗り出したのであります。

然し腐り切つた、情慾亂舞の都會には、色香の失せた彼女にもいつか誘惑の魔手が伸びるのであります。此の誘惑に打ち勝たんとすれば職場に影響すると言ふ仕末で子女養育の爲職場を持つ、未亡人にはどれだけの苦心があるかと言ふ事が私には薄倅の彼女によつて泌みく／＼認識させられたのであります。

そこで婦人相談所に更に未亡人保護事業を併設致しましたが、必實性のより大きい點から、未亡人保護を主體と致しました。

仕事の内容は夫に別れて生活力のない女性に、生活を保證しやうと言ふ事ではありますが、單に物質を與へる事は、私自身にも能力がありませんし、又徒食の習慣を附けると時間の空費から結局墮落する怖がある事を懸念致しまして、先づ適當な職を與へる事に苦心致しました。

古新聞、襪襦布によつて、雑巾、塵拂ひを造るとか、又は洗張、仕立物、洋裁等、女子の手に出来る仕事をこしらへ、それによつて生活の道を拓かしめたのでありますが、意外に同情を得た爲彼女達の生活は確立されたのであります。

處が女子には何處迄も魔の手が伸びるものでありまして、私達不幸な女性の職場に目を附けて近寄つて來たものは私娼窟の輩でありました。

最初は近寄る手段として色々仕事を持つて來てくれます。其中に必要以上な出入をなし、生活の對照を失つた、年増女の衝動と經濟苦の弱點をねらつて誘惑の手を伸ばしてくるのであります。

私は餘りにも多い、女子の苦難に驚きましたが、私娼窟の内容を研究するには絶好のチャンスと思ひまして、色々内容を調べて見ますと、その規模の大きい事、綿密な組織と惡辣な搾取と、巧

みな誘惑網は眞面目な私達には目をまわさん計りの驚異でありました。

泥沼の様な社會の暗黒面 暗から暗に咲く女子のいたましまし姿？……、昭和聖代の今日斯るものが存在すると言ふ事は誠に遺憾な事であります。

當時全關西婦人聯合會では「籠の鳥」開放、即ち公娼廢止運動を相當猛烈にやつてゐたのであります。既に述べました如く私自身も廢娼論者の一人でありましたが、此の暗黒面の吸血兒たる、私娼の餘りにも發展してゐる事實に直面し、私の心境にいさゝかの變化を見たのであります。

眞面目に生きんとする者が次から次へと打ちのめされ、然も完全な立法國として誇る我が國に、法網を潛る徒輩が限りなく増加して行く事は、國民の恥辱であつて、これこそ一日も捨て置く事の出来ない問題であります。更に公娼と私娼に就て相當深く比較、検討致して見ましたが、私は遊廓への恨事から、私娼には相當最負目な見方をしてゐましたが、如何に最負目で見ても、娼婦の收入・病毒傳播率等々結論に於て遂に私娼は劣等であつたのであります。此の兩者の實地研究は私娼撲滅の熱を急激に高めて行つた事は申す迄もありません。

又一個の女性の感情から單に遊廓のみを男子墮落の原因となし、私娼に無關心であつた事に氣附いた私は、私自身の餘りにも社會に無智識であつた事を恥ぢた様な仕末でありました。

けれ共單に之のみによつて公娼、私娼の是非を決定したわけではありません。何故ならば女性に取つても、又日本國民の眞の理想とする處は公娼、私娼共に皆無である事を念願とするからであります。

だが社會人は口に聖人の装ひは致して居りますが其の實、凡ゆる欲望の、醜い血が流れてゐるのでありますから、なげかわしい事ではありますが、然し之は何れかの方法によつて解決しなければならぬ問題です。又之等の問題は極めて輕視されては居りましたが、實際は社會の發展、人格向上に大なる關係を有するものでありますから、只一片の映寫面によつて左右する事は出来なく、従つて研究も大いになさねばならないのであります。

元より私が以下述べます事が賣笑問題解決に萬全であると言ふ如き自惚れを持つものではありませんが、少くとも歐米を模倣して出鱈目な廢娼運動や、純潔を叫んで薄倅な女性の解決をなそうともしない有閑人の單なる理論よりは幾等か讀者諸姉に實際的なヒントを得て戴ける事だけは確信致します。

反對せんが爲の反對でなく、又一個の利害を左右する爲の讃意でなく、眞に全女性、全人類の幸福の爲、延ひては社會淨化の立前から、冷靜な批判と、眞面目な研究の上寸刻も早く賣笑問題の解

決に御盡力を願ひ度いと思ふのであります。

## 初めて遊女に會つた同性の感觸

教育、宗教等、文化の進展と相俟つて凡ゆる社會施設が行はれ、又之等諸問題に對して、男女凡ゆる階級から議論が沸騰し、所謂、社會事業と、男女論客の洪水時代とも言ふ可き今日、何故か賣笑問題に就ては一部の専門家以外は一向に手を出さないのであります。

偶々賣笑問題に觸ると思へば、彼女達や社會の暗黒面を淨化すると言ふのでなく、輕薄極まる歐米思想を受賣りして、公娼廢止運動をする仕末であります。私は公娼廢止に就て可否を言ふのではありませんが何事によらずもう少し根據を持つてやつて戴きたいと思ふのであります。賣笑婦を救濟するのに、遊廊を廢止しさへすれば解決し得られると考へてゐる、單純さには哄笑を禁じ得ないのであります。

斯様な偏狹な論者が極めて少數あるだけで、此の重大な問題に就て大衆は實に冷淡である事は、其の基因が男子は男子として小さな名譽心女子は女子としてくだらない世間體と言ふ、何れも取る

に足らない虚榮心から、宗教や、教育と言ふ表面の美しい問題には尊い時間と費用を投げ出して大騒ぎをするのであります。が、なさねばならない事にはお互に沈思默考、と言つた具合になつてしまふのであります。私自身も宗教問題には多分の興味を持つて居りますから、それを扱ふ方が、やはり賣笑等の問題を取扱ふよりは遙に働き甲斐のある事は充分承知して居りますが、宗教を研究し、宗教の本旨を全人類の生活に應用しなければ何等の意味をなさず、又既に完成された人間には宗教の必要はないのであります。即ち……佛教で説明する、度し難き衆生を濟渡する所に宗教の本質があるもので此の實踐運動こそ私達に與へられた使命であると信じまして、公娼問題に對する可否の研究をなしたのであります。

最初、遊廊で働いて居ります娼妓に就て彼女達の生活狀態健康等を調査致す可く相當の勇氣を起して遊廊に足を入れて見る事に致しました。

個人的な感情は全く沫殺してゐた心算でありましたが、次から次へと思ひ浮ぶ家庭婦人の痛手芝居で見る浦里等が想像されて、どうしても好感が持てず又一方には廢娼論者が良く酷評した「籠の鳥」と言ふ同情心も手傳つてどうしても業者に直接會つて見る勇氣が出ず、遂に空しく歸つた事もありました。



その中客引の女を知る機会を得たので三人の娼妓を某所迄連れ出して貰つて娼妓に直接逢ふ事が出来ました。私は良く妓樓で遊んだ男子から話を聞いてゐましたが、女郎は夜になると白粉や紅を着けて美しく見へるが晝見ると白粉やけがして怪物見たいだ……、此んな事を想像して居りましたので會ふ前迄は他から見ると可笑しい程澁面をしてゐたのでありますが、扱て愈々面接して見ると皆福々と肥へて、實に健康の様で、然も少しの嫌味も又あわればいと言ふ感じもしないのみならず意外に朗かであるのには驚きました。以下私と娼妓との會見談であります。

「問」 筆者

皆さん折角の御休みに時間を戴いて相済みません、長時間は戴きませんから御心棒下さい。毎日辛い御務めで大變で御座いますね、

唯顔を見合せて笑つてゐるだけで何の返事もない。

「問」

様々の御客様の中には嫌な事もありませうか？

「答」 つや子

それは中には好かん人もありますが又良い人もありますからそんなでもありません。

筆者

食物なんか親方様と別ですか？

つや子

皆一緒です。

筆者

聞く所によりますと大變お粗末な様子でありますか？

つや子

でも私達が田舎で食べてゐるものよりは宜敷いから結構だと思つて居ります。

芳香

あすこよりは大分いゝわ……。

筆者

あすことは何處の事ですか？

又お互に顔を見合せて返事をしてくれません、横合ひから引手女が説明して、

引手女

あんた達はお知りでないでせうがあの密淫賣屋の事です。  
私達の時と違ひまして此の頃の娼妓は結構です、何を言ひましても警察が八釜敷しいので食物は良くなるし、帳面はきちんとして貰へますから……それにお茶や花の稽古迄してゐる店もありますから、

筆者

お客さんからチップを取つて上げないとひどいのでせう？

引手女

それや私達の出てゐる頃はお客さんからチップや茶代を貰わんと女中から怒られるし、帳場から叱言を喰つたものですが、最近はお客もなか／＼出しません。又親方の方でも無理を言わなくなりましたから其の點は樂になりました。

筆者

では引手さんのお手當は？……

引手女

私達は茶代の一割を貰ふだけですからつまりませんね。

花代

その事もあそこよりは樂ですわ。

引手女

龜井戸、玉ノ井と言つたら大變な所だそうね。

筆者

貴女は何處からこんな處へお出になりましたか？

引手女

初子さんは紡績から來たんです。

筆者

工場の御飯とどちらが良いですか？

初子

それはこゝの御飯の方がいゝわ……

筆者

斯したお仕事に對してどうお考へになりますか？

流石は女だけに皆少しはにかみの様子でありました。

引手女

此のお方ででしたら遠慮せずに思ふ様にお話しをして上げなさい。

初子

お客さんのない時はほんとうにつまりませんが工場にゐましたらとてもこんな大金はたまりませんから

筆者

月経の時なんかどうします。

つや子

帳場に言つて三日位休ませて戲きます。

筆者

皆さんが一番嫌な事はどんな事ですか？

つや子

お金のない客が上がった時です。

筆者

そんな時は貴女達が辨償するのですか？

引手女

こんな場合は帳場の方で解決する様です。

筆者

どうもありがとう御座いました。私達が聞いてゐた事より大變違ふ様であります。どうか皆さんお體を大事にして下さい。

斯うした對談は實に朗かで社會人の酷評の如き事が全然なかつたのであります。まだ私にはその全貌を信じる事が出来なく、某警察署を訪問し係員に聞いて見ました處其の係員は次の様に語りました。

近頃公娼廢止の聲が相當高くなつて居りますが、此の種の營業を取締る爲内務省令に娼妓取締令と言ふものがあり、或は貸座敷取締規則と言ふものがあつて一定の地域によつて取締つてゐるものであります。従つて公娼制度と言ふものはありません。取締當局では抱主にも相當八釜敷しく言つて娼妓の保護は加へて居ります。

娼妓一人々々の名簿を備へ稼ぎ高から前借金を消却する様になつて居ります。

此の點も當局として充分の注意をして、なる可く娼妓の所得に間違ひのない様にして居ります。賣れ 妓になると二年乃至三年で借金を返済して歸るのもある様です。此頃は各方面から相當手 厳しい改善を要求されるので賣れない妓になると年期迄務めて借金の残額を棒引で歸るものもあ るのですね。病氣の點は極めて嚴重です、これは娼妓のみでなく國民の健康問題ですからね、府 縣によつて多少は違ひますが大體四日乃至一週一回の檢査と言ふ事になつてゐます、そして少し ても病氣のあるものはその場から入院させてしまいます。

〔問〕

四五日乃至一週間と言ふのはどう云ふ譯ですか？

〔答〕

それは年齢によつて違ふのであります、例へば十八歳より二十迄とか又二十一歳以上とか言 ふ具合です。

〔問〕

どう言ふ譯で年齢で區別致しますか？

〔答〕

年齢の少いものは有菌者が多く、年齢の多い物は免疫性があつて感染率が少いと言ふのです

〔問〕

費用はどうなりますか？

〔答〕

府縣の費用でありますから娼妓は一錢も入りません。

〔問〕

妊娠や分娩の時などはどうしておりますか？

〔答〕

さあ、あの商賣の人には餘り聞かないようですが、やはり豫防薬やなんかを使用するせいで せうね。

〔問〕

やはり産制とか何かをやるのでせうね？

〔答〕

嚴重に檢査をやつてゐるのでからそんな事は絶対にありません。

〔問〕

娼妓になる人は田舎の娘や、處女が多いでせうね？

〔答〕

いやそこですよ。私達も初めは貴女のように考へて居りましたが實はそうでなく、九分迄が酌婦、仲居、藝妓女給でありまして、既に男から男へと渡り歩いてゐる女なのです。

〔問〕

まあ―それでは私達の想像とは全然違ひますね、

係員

いや全くです、それに驚く事は仲居、酌婦、女給から來た者が殆んど花柳病にかゝつて居りそれに相當多くの前借を有してゐる事です。

〔問〕

どうして娼妓でないものに前借金があるのでせうね？

〔答〕

此頃の酌婦、仲居は最初仕度金と言つて五十圓から百圓位借りるそうです。

それに衣装や病氣の時親方に立替へて貰ふし、それが段々積つて借金となり、結局娼妓になつて清算する様になるらしいのです。

〔問〕

それでは此の人達も妓に來る迄既に賣淫をやつてゐたのですね？

〔答〕

まあそう言ふ譯ですね。此の種類、所謂私娼に對しては警察犯處罰令によつて可成り手厳しい處罰を受けるのでありますが、全く飯の上の蠅を追ふ様なものです。

〔問〕

御話の如く娼妓に落ちて來るものがそんなに有毒者が多い様では衛生上問題ではありませんか？

〔答〕

全く困つたものであります。

以上の對談はこの問題の研究に對して相當智識を與へてくれました。又遊廓に對する感情も幾分

緩和されましたが、その内容が相像に反し、餘りにも意外であつた事には驚きました。次に樓主を訪問致しました。名刺を出しますと、取次の人は變な顔をして奥へ行つたまゝ何時迄も待たし、再三御願ひすると、最後は不在で追拂われました。婦人會なんかの名刺を持つて行きますとなんのことはない邪摩物扱ひなのです。

偶々面會致しましても録に口を利かないで事務所へ振り向けるのです。此の世界に女の來訪は毛蟲の様に嫌われる事も後で分りました。殊に私が訪問した頃は例の婦人矯風會なんか、盛んに策動して、自廢運動なんかをやつてゐた頃でありましたから警戒されたのも無理からぬ事であつたでせう。止むなく取締事務所を訪れました。丁度其の時は檢査の日でありましたので、取締の案内で檢査場へ案内して貰ひました。

約百疊敷もありそうな大廣間にストロブが五ヶ所程設けられ、そこに數百人の娼妓が待ち合せて居りましたが皆仲々元氣そうであります、係員の案内で上半身を出して健康診断を受けてゐる事がわかりました。次の室では三臺の檢査臺が並べられてあり、府廳から出張してゐる醫師と看護婦によつて檢査されて居り、立會ひの警官が四五人出張して居りました。少し離れた處に組合特設の實費診療所がありますので、ついでに案内されました。茲は内科を主としてゐる所で何時でも自

由に出入して治療を受ける様になつてゐるのだそう、醫療機、病室等は相當完備されて居り、各部分擔の醫師は四五人もゐて中には博士の肩書付きなどもみえました。一巡を終へたので娼妓達によつて結成されてゐる修養會道場へ案内を乞ひました。

茲は一週二回宛、務め時間の餘暇を利用して、作法、茶の湯、生花、裁縫等を隨時習はせてゐるのだそうです。五十歳前後の先生が實に氣持良く迎へて下さいましたので、早速御伺ひ致しますと先生は次の様に御話して下さいました。

最初組合員の依頼を受けまして参りました頃は商賣柄非常に難しいと思ひましたが、接近して見ますと皆苦勞してゐる娘達だけに案外純で教へるに樂であります、只缺點としては、疲勞の故でせうかあきつばい様に思われます、然しそんな人は大概途中で止めてしまひますが、毎回缺かさず來る位の人はない、熱心で、行儀も非常に良く、服装なんかも銘仙で眞面目な装りをしてこられますから一種の同情さへ感じて、氣儘な一般家庭の娘を教へるより遙かに楽しみがあります云々。

彼女達の生活、樓主に對する社會の批判と事實は全く相違して、職業の可否は別として改善と、法の恩典が餘りにもよく行き届いてゐる事には驚きの外はなかつたのであります。

## 遊廓組合と娼妓の關係

見ず聞かず、只廢止論者の酷評のみに左右されて居りました私も、思ひ切つて調査をした爲、此の問題に對する見解が今迄と相違して参りました事は申す迄ありません。

然し私の調査は全國でも代表的な廓でありましたが、その後順次全國の廓を調査すべく材料を集めにかゝつたのであります。意外に思ひましたのは全國を通じて約五萬の娼妓に對し、數倍の私娼の散在してゐる事で、然も廢娼縣下にその數が最も多い事でありました。

私娼に對する調査も、會員諸姉や、先輩者の御親切で出来ましたが、此の問題に就きましては項を變へて述べる事に致しませう。

其後一ヶ月も経つた頃貸座敷組合より娼妓の慰安會があるからとのお招待を受けましたので早速参りました。私に取つては二回目の訪問でありますから前よりは幾等か落ち着く事が出来ましたので娼妓達と一緒に一日楽しむ様な氣樂さで行く事が出来ました。

組合事務所の大廣間には舞臺が出来ており、入口の所には景品が山積されてある、ニコ／＼した

がら入つて来る一人／＼に景品が渡されて約三十分程で會場は一ぱいになつてしまいました。

やがてがや／＼と役員達が入つて来て整列致しますと取締役の人が司會者となつて挨拶を致します。つゞいて署長さんが訓辭をなさいました、署長さんの温い慈父の如き御話は來賓の私でさへ臉の内が熱くなりました。やがて眞面目で成績の良い娘に賞品が授與されました。確か當日は三四人の受賞者があつた様に思ひます。

尙引續いて何處かのお坊さんが修養講話をユーモアたつぷりにお話をなさいました。

斯うした堅苦しい式が一通り終ると、早や樂屋裏で三味線の調子合せが始り、愈々會場が快味を帯びて参りました。

少し疲れましたので事務所でお茶を戴いて居りますと、帳場の人に伴れて二人の娼妓が入つて来ました。そうして取締から水引を掛けた金一封を戴いて居ります。金子は五拾圓と示してあります。その金は務めを終へ、晴れて親元に歸る娼妓に事務所から旅費として與へてゐるのであります。今一人の娘には帳簿を示して貴女は未だ五百圓餘の借金が残つて居りますが、年が明けましたから棒引に致しますから國へ歸つて眞面目に働いて下さい。之は貴女への餞別です。と同じく金一封を戴いて二人は歸つてゆきました。

斯した主従の關係が一般社會のそれより返つて深く結ばれてゐるのに私は非常な満足を感じました。

大廣間では餘興の最中と見え、時々爆笑が聞へて参ります。大底此の慰安會は事務所の廣間で行はれるのでありますが、時には遠足も行ふのであります。

自廢、脱走と言ふ様な事も斯うした時には一人もなく、放任して置いても時間には歸つて務めに  
出るようであります。

自廢なども娼妓自身の意志の發動からと云ふ事は全くなく殆んど外部の誘惑が原因してゐる様であります。

## 第二章

### ネオンの蔭に踊る魔手

不景氣の嵐が吹き初めた大正の末期から昭和三四年頃に掛けて激増した社會病、即ち失業者、インチキ行商、密淫賣等、此の悲しむ可き流行？、は物質文化の流行と相俟つて益々永續性を持ち、遂に今日に至りましたが、今尙私達の如き社會に極めて認識の乏しい者から見ましても、未だその勢ひが失せてゐない様に思われるのであります。當局者の看視を巧に逃れて家庭に押し掛けるインチキ行商人が、善良な主婦の小使を搾取した事件は絶へ間なく、これが爲家庭争議となり、夫婦別れさへした例も少くはありません。未だ物質の問題などはい、方で中には主婦の貞操、生命さへ奪れた事實も全國を通じて相當な數に上つてゐるのであります。

又此のインチキ行商さへ行ひ得ない無能力者？、正直者？、何れかの部類の人等はルンペンとな



つて運命の波亂に身を委ね、遂に打ちのめされ人生から遁走するその數も又限りなくこうした哀話  
はレコードにさへ歌はれた程であります。

更に本書の主題たる賣笑婦も、恐ろしく激増致しましてあらゆる家庭を蝕み、私達女性に取つて  
は戰慄に慣ひする事件が、數限りなく現はれたのであります。此處に二三の實例を示してみ事に  
致しませう。

晝を欺くネオンの下で、流行の魁の如き美服を纏ひ、白粉、唇紅の粉飾も妖艶な巷のクイン、即  
ち女給、ダンサーの群は全くの無智な娘を誘惑し、家人の反對をも押し切らせて家出をさせたの  
であります。

斯くして職を求めて場末をうろつく彼女の目に止まるものは、軒並みに竝んだインチキ酒場、そ  
して入口に貼出されてゐる女給募集の廣告、だが憧憬とは言へ、未だ純を失つてゐない彼女には  
募集に應じて暖簾を潜るだけの勇氣を持たないのであります。そして此處彼處を歩き廻る中、疲  
れが手傳つてくる、時間も過ぎて来る、止むなく思ひ切つて或るカフェーに飛び込んで談判をす  
る、そうしますと、八百屋で大根を買ふ程簡単に承知してくれると云ふ事になるのであります表  
の美麗なネオンに反して、これは又至つて原始的な内部である薄暗ひ六疊の間に壊れた鏡臺、午

後の四時頃迄は何の仕事もなく古雑誌に目を通したりしてゐる仕末です。

そろ／＼街にネオンのつく頃、マダムに催促されて、化粧をする、そして愈々彼女の女給生活の  
スタートは切られたのであります。「然し讀者の皆さん、此の娘に與へられた三疊の室の押入  
れに花模様の布團、男女の枕が置いてあつた事に彼女は氣が附かなかつたのです。」

幾室にも仕切られた小さな室、そして薄暗い電燈の下で私語く男女、朗らかなレコードの音、純  
眞な彼女にはこれらがどんなに見え、又どんなに聞へた事でせう？熟練しきつたマダムの辯舌で  
巧みに朋輩に紹介された彼女は、何の不思議も疑問も抱かず、只希望の職にありついた喜びで一  
ぱいでした。

朋輩に伴われて食事をする可くコック室に入ると、茲は西洋料理の看板とは似てもつかない、か  
けた茶椀に澤庵があるだけで、洋食の材料なんか一つもないのであります。

貧しい乍らも、兩親の下で暖い御飯に母の料理で食事を取つてゐた彼女には流石に悲哀と、實に  
想像のつかぬこの商賣に對する悩みが湧いてきたのでした。然し家を出た彼女には今更どうする  
事も出來ず、他の女給と一緒に我慢をして食事を済ませ、店に出ますとこれは又打つて變つた、  
天國で、數人の女達は嬉々として戯むれ、レコードに合して歌ひ狂つてゐるのです。彼女も遂つり

込まれて小聲で流行歌を口ずさみ乍ら、コンパクトで顔を叩いてゐると一人のお客がいきなり彼女の肩を叩くのでした耳迄赤くしてもちく／＼してゐると先輩が早速客にからみ着いて行くのでした。そうしてポツクスに腰を下した二人は盛んにビールを飲み始めました。そして十二時近くにみると皆二階へ上つて行きます、中にはマダムの許しを得て二人で出て行く者もありました。斯うした特殊な道徳と、技能によつて生活をしてゐる世界に、初めて足を入れた、女性は、皆一様に悲哀のどん底へ突き落され、一度は改心の情にかられ、職業轉換を考へるのでありますが、親兄弟にそむき自ら此の道を希望した手前今更家にも歸へられず、我慢して務める事になるのですが、雇主の方でも、此の女が一つの境界線を脱して、積極的に働く様になる迄は、至れり盡せりの親切で彼女を操つて行くのであります。

戒言耳に逆ひ、良薬口に苦く、

毒薬口に甘く、甘言の裏に野望あり、

此の平易な訓戒が青年男女の將來を左右する大きな原素となり、男女の墮落行程を餘りにも明白に指示してゐる事が、此の渦中に苦しんで初めて分るのであります。

然し一旦紅燈の巷に食を求めたならば、容易に脱する事が出来ず、次から次へと轉々する様になるのであります、彼女らは果して如何なる行程を如何にして落ちて行くのでありませうか？。以下に詳しく述べて見たいと思ひます。

## 彼女の貞操は斯うして奪はれる

前項に述べました如く、怪しげなレコードと、着飾つた、酒場の風景は外見確かに虚榮の強い女性を誘惑するに充分であります。

前述の彼女も鞆の中に足を入れた蠅の如く、どうする事も出来なく、銑練された、朋輩に就て初めの中は足を棒にして、ビールやコーヒを運んで居りましたが、時間と日が経つに従つてビールや酒を無理矢理に飲まなければならなくなりました。

或夜且つて口にした事もない酒を飲まれた苦しきから、遂に彼女は昏倒してしまい、仲間介抱されて例の薄暗い室に運ばれ、前後を忘れ、昏醉を續けて居りましたが、酔ひが醒めて我にかへつた時彼女はどんなに驚いたでせう。彼女の側には宵の客がちゃんと寝てゐるではありませんか？。しかのみならず彼女の貞操は、殘酷にも彼女の無意識の中に奪われて居りました。

不安と腹立たしさに愁然たる彼女の前に貞操の代價は投げ出され。そして野獸が煙の如く消へて行きますと、何食わぬ顔で彼女を見舞ひに来る雇主。一切の恥辱を放棄して前後の處置を訴へた彼女に對し雇主は何と云つたか？、彼は魔窟の手練と奥義を教へたのみではないか。  
弱き者よ汝の名は女なり。

此の言葉は若い人達の辨舌の材料として良く使われる文句であります。全く斯る場合の爲に作られたものではないかとさへ悲しくなります。然し、又反對に境遇によつては男子以上の馬鹿度胸と辛辣さを有する女性のゐる事も否定出来ない事は明白であります。

貞操感念に於ても一旦投げ出された時は、あらゆる、智識と手段を研究して、今度は自から惡の相手を求める様になる事が多いのであります。

彼女も日が経つに従つて洗練され。今では貞操の代價も相當な収入となつて参りましたので、佛心か？、反抗心か兎に角父母の下へ僅かな金子さへも送る事さへあつたのであります。

だが何時迄も斯かる生活は續くものではなく、遂に彼女も恐しい病魔に襲はれてしまいました。早速マダムの世話で町醫者に罹かり治療を續けましたが、収入の關係上無理をして酒色に浸る爲、病勢は益々つり、遂に忌まはしくも病氣のため働く事が出来なくなつてしまつたのであります。

其上備主が彼女に今與へたものは次の様な表によつてあらわされたのであります。

花柳病治療代

一、注射代	金何圓
一、外用藥	金何圓
一、内服藥	金何圓
合計金	何拾何圓何錢也
食費室代、前貸金	〇〇圓

斯した金子の請求は、働く事の出来なくなつた、場合、その女に請求されるのが斯うした社會の定石でありまして、こんな場合僅か許りの貯へを抛擲しても所詮支拂ひの、一部にも充る道理がなくこの結果が本物の賣笑婦となつて借金の仕末を付ける事になるのであります。がこう言ふ女の行程として必ず酌婦に身賣するやうであります。

それは自己の氣儘から落ちて行くのでありますから、親兄弟に無承諾で行ける個所を選ぶのが第一の理由と、インチキ周旋屋の手が廻つてゐる事が第二の理由となつてゐるのであります。

次に此の世界に身賣をした女の身代金の多くは誰の手に渡るか、此の問題は社會人として大いに

研究を要する事であると考へます。

勿論初の店に借金が多くある場合は殆んど前雇主が取つてしまひますが、假りに少い場合は仲介者が搾取してしまうのでありまして、肝心の本人は空手形を受取るだけで殆んど現金を握る事がないのであります。

扱て酌婦として務めた場合、前記の酒場の比ではなく、一層辛酷な務めをやらなければならぬなり、抱主にしても彼女を酷使する事を茶飯事と心得てゐる程であります。

その理由は最初は借金と言ふものがなく、女給と言ふフリーな立場でありますから、幾分自由さを持つて居り、又營業主に於てもそこ迄の権力はありませんが、酌婦と言ふ事になりますと、初めから前借が付いてゐる理由と彼女に賣娼を強制する事が當局に知れた場合當然彼女を解放しなければならぬと言ふ様な悪質の理由があります爲、不道德にも人間の體を機械の如く、使用し、搾取の出来るだけ搾取するのであります。ですから事故がない場合は年限は無制限でありまして五年、十年、十五年の長期間に渡つてゐる者も少くはありません。然も身賣當時の借金は、あゝゆる理由の下に減少される事はなく、反對に年月を得る程、増へてゐるのでありますから驚くの外ありません。搾取の出来るだけやつた後、又抱主は彼女を轉賣して中間利益を得やうと考へるのであります。

が。此の時は既に白粉、紅によつて塗つぶされた、生ける人形の様な彼女になつてゐるのであります。

以上の如く暗から暗へ轉々搾取され、疲れ切つた體は最後に遊廓へ公娼として務める順序になるのであります。

この場合娼妓許可を受ける爲、醫師の健康診断を受ける事になるのでありますが、八割以上は花柳病の治療を要するのでありまして、酌婦稼業に花柳病者でないものが皆無であると言ふ事は證明される譯であります。

次に示してある公娼、私娼に對する花柳病率を御覽になれば讀者諸氏には判然とされる事と思ひます、然もこれを調査された方は、廢娼運動の幹部である、女子醫學博士竹内茂代さんでありますから、筆者の贅言でない事も明白になると思ひます。

全國花柳病患者に就ての割合 (賣笑婦のみ)

公娼、一、九三%

私娼、四、四五%……「酌婦、三等藝妓、を指すもので不完全乍ら檢微を受けてゐる私娼」

中以上の藝妓、七、六六%

此の問題に就きましては項を變へて説明する事に致しますが、兎に角花柳病の轉播率は藝妓が一番多く、次に私娼、最後に一番非難されてゐる公娼が一番少なくなつてゐる事がわかりになつた事と思ひます。

前項に述べました警官のお話の如く私娼より公娼に轉向して來たものは初めて完全な治療によつて健康を回復し、不明の借金を清算して法定年限を務め、解放されると言ふ段階を潜つて來るのであります。

本編は自己の氣儘から十數年泥沼を歩んで來た、或女性が、筆者に告白された、體驗談であります。之によつて私達は賣笑問題を研究するに對し、カフェー、小料理屋の内幕に一層の注意を拂ふ必要がありますと共に、全女性の爲私娼魔窟の掃蕩を第一陣として、なさねばならない必實性を認識し得られるのであります。

## 教育萬能の裏面に此の醜體

前項の私娼は文化の產物として紅燈の巷に限りなく散在して居ります、所謂公然の祕密とさへ言

われて居ります賣笑であります。更に子女の教育上寒心に堪へない事は履違へた教育萬能から來るインテリ階級の風紀問題であります。

如何に生活の爲とは言へ、未成年の少女が賣淫を行ふ事は、餘りに數の多い事ではあります。實に寒心に堪へない事でありまして、最近の新聞紙上にも現はれました如く、僅に十六歳の少女が日蔭の生活を送つて居り、然もその相手が最高學府の教授であつたと云ふ事につきましては今更恐愕の外はありません、此の事實を前に一般國民は、腐敗せる社會と教育界の刷新に大いなる關心を待たなければならぬのではありますまいか？

私はこの大學教授と少女の忌まわしくも悲惨なる關係を適例として此處に強て父兄の覺醒を促したいと思ふのであります。

### 制服の内侍

昭和三、四年頃の話であります。私が住んで居りました筋向ひに某女學校四年生に通つて居りました、美しい娘がいました。朝夕顔を合せますが快活で誠に感じの良い娘で、私共の子供達を非常に可愛がつて下さいました。

此の娘の父は某會社の人事係で相當な地位に置かれて居たようですが事業不振の理由でお氣の毒

にも失職の運命に遭遇し、爾來毎日の様に就職運動に奔走されて居た様でありましたが、年を取つた人にはなか／＼良い就職口がなかつた様でありました。そうした父の苦痛からか？、その年の暮から、今迄快活であつた娘さんは急に元気がなくなり通學以外は表にも出なくなつたのであります。

今迄餘り人の出入のなかつた家ではありますが、其の頃毎日の様に一人の僧侶が出入して居りましたが、何時の間にか近所へ挨拶もせず轉宅致してしまいました。こんな事は失業者の家庭によくある事で、私共も大して氣に止めずに居りましたが、それから三ヶ月程して私は或る驛で娘さんに會ひました。今迄白粉氣など更になかつた娘さんが急にお化粧して、全く見違へる程美しくなつてゐるのに驚きました。久し振りで父の事を尋ねますと父は未だ遊んで居りますが親戚のお世話で家計は樂になりました。と言ふ様な話をしながら、なんとなく落着かない様子で、電車に逃げ込む様に乗つてしまいました。そうした事があつて七ヶ月の歳月が流れた或日、娘の母親が困惑した顔付きで私の家にお出でになりました。疲れ切つた顔で、然も話が人を憚る様子でありましたので、私は家人をしりぞけて用件を聞く事に致しました。殆んど泣かんばかりの聲で母親の語つたのは次の様な事でありました。

近所の皆様にお挨拶もせず轉宅致しました理由は、長い夫の失業で家計も苦しくなつたので、娘も學校を止めさせ、勤めに出そうと思ひ、主人の知人にお願ひ致しました處、ある銀行に入れて頂く事になりましたが、後一年で學校も卒業するのでありますから、なんとかして學校だけ卒業してから入れてはと言ふ事になりました。話が全體決まりますと、丁度其の時來會はせてゐた坊さんが私の住所を尋ねますので、何心なく教へました。すると或日坊さんが私達の家にお出になり娘をじろ／＼見て居りましたが、お主人が失職してお困りならば急場を救ふ爲二百圓位の金ならお世話してやるから娘を出せと云ふのです。主人は大變怒りましたが、今日の日にも困り、娘の學費も出来ない仕末でありますし、話を聞いて見れば主人や娘の名も外へもれず祕密で通學出来ると言ふ話でありますので、溺れるものは藁でも掴む心持で承諾してしまいました。話が纏まりますと早速坊さんは二百圓の仕度金と、娘の月謝として五十圓、合計二百五十圓を渡してくれました上、此處は人目につくから轉宅せよと又轉宅費五十圓を下さいました。

娘も初めの中は一晩に五圓、拾圓と稼いで來ますので一時は福の神でも舞ひ込んで來た様に喜びました。それから一、二ヶ月経ちますとお店の方から着物や帯を作つてとゞけられました。その中収入がだん／＼減つて行くので其の譯を聞きますと、衣装や借金を差引きして行くのです。今

になつては致し方ありませんのでお客様から戴く心付けを便りに毎夜出掛けて居りましたのですが、娘の顔色が段々悪くなつて行きますのでお醫者に見て戴きますと、内心氣づかつて居りました通り、病氣を感染してゐたのであります。驚いて治療を受ける事に致しましたが治療代を負擔するだけの能力なく、嫌がる者を無理に務めさせて學校へもやつて居りました。娘も病氣が苦しいのか、どうも務をきらいますので店へ行つて休ませて戴く様に頼みますと、休むなら立替への三百圓を支拂へと言ふ事です。餘りの事にこんどは坊さんを尋ねますと不在がちで會ふ事が出来ないので。

或夜の事なんか店へ行きますと、制服で客席へ出よと言われましたので娘が泣いて断はると、君は制眼だから高い金を出してゐるのだ、いやなら借金を返せとの事に、よんどころなく出ますとお客さんが、君は本當に學生かと尋ねたさうです。勿論本人は言を左右にして答へなかつたので、す處が翌朝登校致しますと、門の中でお早ようと昨夜の客に聲を掛けられ、驚きと學校へ申譯けがない爲朝禮だけ済まして歸つて來てしまつたのです。

娘の話によりますと、他の娘で逃げ出したのが捕へられ、四、五日は丸裸にされ、打つ、蹴るの目にあつたさうです。私の娘もこんな目に會つたのだと思ふとたまらないのです。

私は以上の様な告白を聞かされたのでありますが、私自身も餘りの事に呆然と致しました、聖代の今日、可様な事は一日も早く消滅せなければならぬと思ひ、幸ひ近所の刑事さんを知つてゐるので早速檢束して戴いたら……と言ひますと、その母親は私の袖にすがり附いて實は主人も恥を捨て、警察へ訴へると言ひますが、娘が學校へ濟まないから許してくれ、たつて、表沙汰にされるなら私は學校への申譯けに死んでしまふと云ひますので、私も非常に困りお相談に上つたと言ふのであります。

間違つた教育萬能主義 生活苦の人間を繰る悪魔の蠢動、この歎かましい社會機構の缺陷を改革する事が非常時國民に課せられた最大急務であると云ふ事を深く私は考へたのであります。

私は此の哀れな娘を兎に角引取つて當分お世話する事に致しました。

貧困の故とは云ひながらそうした悪魔の餌食になつた事を非常に悔て、後學の爲にも娘は私にその組織を語つてくれました。以下は民間私娼窟の内容であります。

店は何處の家でも大抵一番端の家を利用し表からでも裏からでも自由に出入の出来る様になつて居ります。店の花形と言つた娘達は午後七時から店に行き風呂に入り、化粧や着附は姉さん株が手傳つて濟ませるのであります。

一軒の家で四五人は抱えてゐて、客は皆二階で取る様であります。

呼び出しの来た時は皆ホテルや旅館に出張するのでありますが、電話は決して番號が表に出ておらず、又電話の取付けは押入の中になつて居ります。

そうして彼等に對する暗號があるので、若い者を派出向、中年の人を中柄、年増を小柄と呼んで客の要求に應じてゐるのであります。

料理も客の要求で取次ぐそうですが人目に着き易いので大概は抱主(父さんと呼ぶ)が作る様であります、収入は四分六と言ふ事になつてゐますが、大部分は抱主が誤魔化して搾取してしまふのが常習となつて居る様です。

娘達の小使は慣れて来て客から貰ふ迄は殆んど持つ事が出来ないであります。借金の程度は大底三百圓位で、働く人は多様に涉つて居りますが、やつぱり田舎の人が多いのであります。中には苦しさの餘り逃げ出すのもある様ですが大抵四五日で連れもどされて居ります。娘達の健康状態は餘程運の良いので半歳、早いので二月目位で完全に病氣を受けて居ります。稼ぎ高が多くて借金の返済されるものには衣類を注文して借金を作らせ、どうしても元金が減らない様な仕組みになつて居ります。

以上の様な内容であつて、甘言に乗じて一度足を入れたが最後までぐ程窮地に陥入り、働く程搾取されるのが民間に暗躍してゐる私娼窟でありまして、貧困娘の救済を目的とする廢娼運動に先立ちて何故に萬難を排して此の無法な社會の革正を計らないかと言ふ事に大きな疑問と物足りなさを感ずるのであります。

## 巧みな吸血鬼の搾取手段

更に私共の驚く事は世界に誇る程警察力の行届いた我國で、如何なる手段を以つて法網を潜つてゐるかと言ふ事であります。

此の點に就て調べて見ますと、以下の様な人間を繰つてゐるのであります。

遊び人、インチキ周旋屋、生臭坊主、吳服行商人、悉皆屋等で、物賣りを装うて、出入りをし、物知りな妻君達から目を付け、家庭の様子を知るのであります。

その上で未亡人とか、或は娘のゐる家に入入して、衣類等の貸賣りをするのであります。

特に未亡人なんかには性慾を誘導する様な書類、器具等を披露して執拗に誘惑すると言ふ悪辣な



手段を講じて引入れて行くのでありますが、こんな場合男子と異り女子には妊娠と言ふ大きな悩みがありますから、誘惑する前に此の不安を取り除く爲産兒制限とか、或は豫防知識と言ふものを極めて巧妙に説明して置く等は、相當悪智にたけたものでありまして、一般婦女子として斯くの如き者には一段の注意を要す可きであります。前述の如く高價な衣類を貸付けて女子の虚榮を満足せしめて置き、更に手を替へ品を替へて誘惑するのでありますが、中には芝居、活動の招待券等を利用するのも相當あります。又中にはハイヤーなどでドライブをすゝめ、歸りに淫らな俱樂部等に案内して女の獵奇をそそつて行くと言ふ手もあります。

斯くの如く多種多様な手段によつて彼等は誘惑するのでありますが、彼等の手に落ちて行くものも又更に多様に涉つて居り、女店員、事務員、女給、藝者、女教員、裁縫師、未亡人、人妻、女學生と言つた様に區別されますが、中にも可愛想なのは生活力をなくした未亡人への誘惑であります。

夫に死別した未亡人は多く内職として仕立物、或は物品の外交をやりますが、之に目を附けるのが所謂不良紳士で、初めの中は慈父の如き同情を装つて仕立物の注文、又は物品の注文等をして必要以上の金子を置いて歡心を買ひ、最後に貞操を奪つてしまふのであります。一旦女性の肉體を弄んだが最後、再び出入はしなくなるのですが、之は未だ良い方で、散々弄んだ揚句私娼窟に賣

り飛ばすか、或は病毒を傳染させて、消えてしまふと言ふ様なもの多いのであります。

私が人事相談を受けた中にも此種の毒牙に掛つた人が随分ありました。

尙散娼に就ては笑へぬナンセンスがよくあるのです。

小さなおでん屋で客を取る家を紹介された、客がとなりの家庭と間違へて訪れ、主婦に散々油を取られたと言ふ話。

又友人に案内されて、譯の分らぬ二階で待つてゐると、客引に案内されてやつて來た女が自分の女房であつた爲、思はぬ所で夫婦喧嘩が初まつたと言ふ様な事であります。

此のある可からざる事實はその責の大半が輕薄な現代女子にあるとしても、又その大半は男子にもある事を私は力説し、大いに男性の反省をも促したのであります。

## 賣笑の發生とその動機

石川や、濱の眞砂はつきるとも

世に泥棒のたゆる事なし。

一代の強賊石川の辭世の如く、泥棒の絶ゆる事なきと同様、賣淫も昔より連綿として、杜絶した事はないのであります。我國に於ても賣笑婦は相當古くから散在して居りましたが、集團的のものは鎌倉時代に平家の落人の婦女子が生活の對策として京都、奈良の街裏に現われ、蔭にかくれて操を賣つた所謂尼女郎が大體其の初まりとなつて居るの樣であります。

大阪落城に相次いで戰役の犠牲者が惡習を受け繼いで、次第に發展し、江戸時代に參勤交代の武士達の求めに應じて漸時全盛を極める様になつたのであります。

處が此の私娼の發展は風紀上、捨て置き難い情勢になつたので、徳川幕府は元和元年、當時の取締役でありました庄司甚右門に言ひ付け、五ヶ條の規定を作つて葎屋町の葎の原の田蒲の中に二丁四方の廓を特設し、町中の賣淫を茲に集めたのであります、これが我國の遊廓の初まりで、江戸吉原遊廓の前身であつたのであります。

江戸の繁昌に伴れて道中の宿場に飯盛女と稱する賣笑婦が横行し、徳川政府の缺陷は泰平の人心を墮落させ風紀は益々亂れ初めたのであります。

京の島原遊廓、長崎の丸山遊廓（廢娼運動の策動により昭和十年私娼に轉向）等は江戸の制定に習ひ遊廓として指定されたのであります。それから次々と制定され、殆んど全縣に數ヶ所宛遊廓

が設置されたのであります。明治開港以來外國貿易が盛んになるに伴れてこの制度は奴隸制度であり、人身賣買に抵觸すると言ふ立前から問題となり明治五年一旦廢止されたのであります。

廢止後は東京、横濱を初め各港から山間の都市に至る迄風紀は一層亂れ、婦女の一人歩きすらも、出來ない状態になりましたので時の政府は前借金制度の下に新なる規則を設けて再び貸座敷營業を一定の地域に於て許可したのであります。尙貸座敷外の賣淫行爲は警察犯處罰令第一條第一號を以て三十日未滿の拘留、又は三拾圓以上、百圓以下の料料處分に附したのであります。

此の嚴然たる法令の適用は非常な効を奏し、明治の末期迄風紀は確立されてゐたのであります。明治末期から大正へかけての戦後の好況は、又しても國民を墮落せしめ、加へて驚く可き機械工業の發展は農村青年子女をして都會に押し寄せさせた爲、都會の人口は激増したのであります。

人口増加と、土地の發展が遊里の巷を發展せしむる事實は、社會の惡定理として止むを得ざる事でありませう。即ち有名な淺草十二階下、千束の白首と言つた私娼窟も之等の副産物となつた譯であります。

現貴族院議員丸山鶴吉さんが警視總監時代帝都の風紀取締の上からトラックで總檢束をなし營業停止を命じた事も有名な事實で、心ある人から盛んに推賞されたものであります。

處が飯の上の蠅を追ふ如く、淺草を追われた彼等は、又しても處を變へて、インチキ小料理屋を始め、遂には賣淫専門となつたのが現在の玉の井、龜井戸の私娼窟であります。

遊廓の營業が昔から古い型であるのに反し、小さい乍らも時代味を取り入れた、私娼窟は、忽ち人氣を呼んで僅か數年足らずして三百軒と言ふ大激増を見、戸數に於ては認定の廓を凌駕するに至つたのであります。

私は當時社會事業關係の方々二三と視察を致しましたが、その光景は實に悲惨なもので、二階建の棟割長屋が兩側に立ち並んで周圍は高塀をもつて圍ひ、一尺四方位の、恰も留置場の窓口の様な所から白粉で塗り潰した顔を晒し客を呼んでゐるのであります。

冬期になりましても暖房の設備もなく、板の間に煎餅布團を一枚敷ひて、客のある迄は二時三時となつても座つてゐるのであります。同性として一度此の有様を見ます時、全く涙なくしては見られないのであります。

此處に働く女達も公娼と同様、三百圓から千圓以上の前借で抱えられてゐるのであります。外出の時などは嚴重な看視が附かなければ許されないであります。

公娼とは異り、此の稼業になるには警察の紹介も親の證明も要らない自由さからモグリ周旋屋の

手を経た者、家出等の婦女子が多くその生活状態は炊事から洗濯に至る迄、女中代りに酷使され性病に罹つた時等の治療は自分の負擔となり、親兄弟に不幸があつても見舞にすら行く事が出来ないのであります。

又抱主の虐待や、病苦に耐へられない場合も公娼の如く訴へる事が出来なくて、それは密淫賣と言ふ犯罪行爲を自分も犯してゐる弱みから、泣寝入りをする様な結果となり抱主の方では此の弱點を搾取のポイントにしてゐるのであります。

昭和八年の六月頃でありました玉ノ井の某私娼屋で或高女出の女が病氣の爲め客を取る事が出来ない女を虐待して死に至らしめた事に憤慨し、自分が先頭に立つて待遇改善のストライキを起して此の暗の社會に大きな波紋を投げかけたのであります。然しこれは當局や一般社會との連絡がない爲、哀れにも組合から弾壓され、握り潰されたのであります。全國の私娼は東京の玉ノ井、龜井戸を始めとして、無數に散在されて居りますが、其の内容は何れも封建時代の廓の如く、今日尙、あらゆる悲惨事が繰り返へされてゐるのであります。

## 私娼窟の罰金と營業者の觀念

眞面目な人間から考へますと想像のつかぬ事は、此の澤山の營業者が千圓内外の女を三人も四人も抱えて毎月相當な収入を上げ、贅澤な暮しをして居りながら國民の義務である納税もせず居住權と選舉權だけを持つて資本家面を振り散いてゐるのみか、中には國民の代表者である公職にさへ就かんとして、選舉期には立候補さへなすものがあり、又公職について、天下國家の問題を論じてゐると言ふ様な無茶な事實さえあるのであります。如何に資本主義社會の機構とは言へ、國民として大いに此の點は自覺し、私達國民の代表は、人格、識見共に卓越せる人を代表としなければなりません。

第二に不思議な事は、毎月各一軒から豫納金として二十圓から五十圓近く現金で警察に納める金であります。これは前項に申述べました警察犯處罰令の罰金に充當する金である様に聞いて居りますが、法治國民として罰金が恰も定期の納税の如く取扱われて居ります事はなんたる恥辱でありませう、こんな事實を前に法治國として世界に誇る事が出来るのでありませうか？、私達國民は罰金

と言ふ如き忌はしきものは少しでも減少する事を念願とする事は勿論でありまして、如何に特殊社會とは申しましても、斯様な不自然な、恥すべき事實は一日たりとも早く除去して載きたいのであります。

更に第三として不可解な事は此の大きな私娼街に働く三千餘の女達を如何にして抱へ入れるかと言ふ事でありまして、私は此の點は、聊さか意見を異にする廢娼運動の方にも、女性の地位を確立する上に於て大いに研究して載き度と思ふのであります。

何人も承知の如く我國では密淫賣は斷じて許しては居りません。若し當局者に發見された場合は必ず檢擧され、飲食店であれば營業停止處分を受けるのであります。然るに玉ノ井、龜井戸、或は他の縣下に於ても群集してゐる處は默許されてゐるのであります。斯様な權威のない法がどこにありませう、私は法の精神として斯くの如き惡質な犯罪行爲こそ更に強力な法の適用を施す可きであると信ずるものであります。

又賣淫行爲は公娼以外に周旋する事は出來ないにも拘らず私娼窟の大部分が周旋屋の手によつて抱えられて行く事實であります。モグリ周旋屋同志が連絡を取つて生活に喘ぐ地方娘や、虛榮心の強い浮氣娘を誘惑しては賣込み多額の手數料を取つた上鞍替へ（抱主を替へる事）を進めて二重三

重の利益をむさぼつてゐるのであつて、此處は又モグリ周施屋の天地であり、誘拐魔の巢窟であります。

又衣類、化粧品等の購入に於ても非常に不利なものを買わされ、逆に雇主等は之によつて又相當の利益を得てゐるのであります、性病の點に於ては、一昨年玉ノ井には警視廳の檢査所が設置されましたので、視察致しましたが實に不完全なもので娼妓を入院せしめてゐる病院に比較致しますと全く問題になりません。

此の暗黒社會で疲れ切つた體をあの陰慘な路地の板の間に陳列され、客を呼ぶ有様、これこそ輕薄な歐米文化の産んだ人肉のマーケットではありますまいか？

私は女性として廢娼運動も身實防止も一面には肯定する事も出來ますが、それよりも更に更に急務とする事は此の暗黒社會の明朗化を計る事であると信じるものであります。

昭和十年の二月頃でありました、江戸吉原が今日にも廢止される様な記事が報導され、或遊廓の一部では之等の煽動によつて私娼への轉向運動が初まりましたので、不肖私の主宰致します、「日本婦人更生會」では同一主旨の下にある「大日本更生社」と共力して廢娼運動の矛盾に抗す可く演説會等を數回行ひ、正しき民衆の審判を仰いだのであります、その結果一般大衆の總意は私共の主

張を入れられ、以來公娼制度の必要論と、私娼撲滅の聲が非常な勢ひで擡頭して參つたのであります。

尙此の私娼窟では反對論者の攻撃非難を避ける手段として、左の様な示達を掲げて所轄署から營業者に配布されたのであります、讀者諸氏の御參考迄に原文の儘を掲載して置きませう。

示

達

玉ノ井組合關係者一般左記事項遵守セラレベシ

右示達候也

昭和九年六月十一日

寺島署長 岡崎英城

一、現在ノ營業地域(別紙圖面通り)以外ニ擴張セザルコト

二、營業家屋ハ現在ノ戸數四百七十七戸ニ限り且ツ他ノ家屋ニ移轉ト雖モ絶對ニ之レヲ爲サザルコト

三、客室又ハ居室ノ擴張ト雖も一切之レヲ爲サザルコト

四、家屋ニ對シテハ「ネオンサイン」其他人目を惹ク如キ裝飾ヲ爲サザルコト

- 五、三階家屋並ビニ二階ヲ含ム以上ノ建物ヲ設ケザルコト
- 六、屋内ハ道路其他外部ヨリ見透シ得ザル様設備スルコト
- 七、家屋ノ出入口ハ常ニ閉鎖シ置クコト
- 八、呼込客ハ一戸一個所以下トシ且ツ主要ノ道路其他若シクハ公衆ノ目ニ觸ル場所ニハ之レヲ見セザルコト
- 九、十八歳未満ノ出方ヲ使用セザルコト
- 十、出方ニ非ラザル十四歳以上四十歳未満ノ雇女ヲ置カサルコト
- 十一、通勤ノ出方ハ之レヲ使用セザルコト
- 十二、出方ハ必ず健康診断書ヲ携帯スベキコト
- 十三、出方ハ必ず健康診断指定日時ニ出頭スベキコト
- 十四、濫リニ店頭又ハ街道ニ彷徨停立セザルコト
- 十五、歩行者ニ對シ引止ノ勸誘ヲ爲サザルコト
- 十六、遊客ノ帽子ステツキ等ヲ奪取セザルコト
- 十七、卑猥又ハ虚偽ノ言辭ヲ弄シ遊興勸誘セザルコト

- 十八、約束以外ニ金錢ヲ要求セザルコト
- 十九、屋内ト雖モ特ニ公安風俗ヲ紊ス行爲ヲ爲サザルコト
- 二十、出方ハ遊客ト同伴外出セザルコト
- 廿一、學生未成年者ニ對シ遊興ヲ爲サザルコト
- 廿二、方法ノ如何ヲ問ハズ廣告宣傳ニワタル行爲ヲナサザルコト
- 廿三、稼業時間ハ午前二時ヲ以テ限度トナスコト
- 廿四、地域外ニ於テハ絶對ニ稼業ヲ爲サバルコト
- 廿五、婦女を誘拐誘惑其他不正手段ニ依リ雇入レザルコト
- 廿六、出方ノ違反ニ對シテハ雇主ニ於テ共ニ其責ヲ負擔スベキコト
- 廿七、出方雇主ハ出方ニ對シ冷酷ナル待遇ヲ爲サバルコト
- 廿八、出方ノ員數制限ニ違反セザルコト

以 上

以上の示達を見、しても讀者諸氏には、如何に全國に私娼が猛威をふるつてゐるかと言ふ事がお  
分りになつた事と思ひます。

之は單に東京の一部の例でありますが、近縣では横濱、群馬縣を初め、全國に散在してゐるのであります。之から及ぼす病毒の傳播の如きも、第二章に示せる如く、公娼の比ではないのであります。

## 第三章

### 私娼婦抱へ入れとその手段

廢娼實施の魁である群馬縣は、全國でも私娼の最も多い縣であります。私は之の調査の目的で昭和十一年三月同地に出張致しましたが、容易に面會が出来ないので、遂に高崎の私娼街の近所の宿に落着きました。處が丁度都合の良い事には此の旅館は各地の周旋屋の常宿で、皆此の旅館に宿つて抱主と女との見會ひ、契約等を行ふ様になつてゐると言ふ話でありますので、番頭の助力を得て取引される娘に祕密で會ふ事に致しました。

此の娘は縣下の大工の娘であります。父が現場で負傷したのが元で二年餘りも患らひ、始めの中は彼方此方の同情で三月餘りの入院費も支拂ふ事が出来たが病が昂じてリユマチスになり、長びくに伴れ見舞金は段々少なくなり、終ひには時偶菓子折か果物位しか送られぬ様になり、従つて生

活費や藥代の困難に落つたのであります。

其の上母は手職はなく、十五歳の娘を頭に五人の子供を抱へてゐる仕末なので娘は奉公に出し、弟は大工の弟子に出して細々乍ら暮してゐたのでありましたが、不運は何時も重なる例へで肝腎の母親が腹膜炎を引起し、手術を要する様になりましたので、母の養生や父の看護の爲一時暇を貰つて歸つたのであります。處が其の晩周旋屋が來て、一時二百圓立代へると言ふ話で母は入院し娘は今迄の奉公先をやめて酌婦に行く事を誓約したとの事でありました。

手術後母は非常に経過がよく二週間で退院致しました。酌婦になつた娘は、毎夜二人乃至三人の客を取りますで六七圓の収入になり、父親も大分よくなつたので、指物屋を始めましたが何分長い患ひの後なので生活苦はなかく解消せず、時折娘から二圓三圓と借りて暮してゐる中四年の歲月は流れたのであります。其の内生活もいくらか楽になつたので父親は娘を引かして着物の少々も作つてやつて嫁入りをさせよう、と言ふ親心から或日歸宅を迫つた處意外にも抱主から、子供は何時でも歸すから六百圓の金を持つて來いと言ふ手紙を受取つたのであります。

驚いた父親は數回抱主に詰問した處前借二百圓に、衣類代、家に送つた立替金、病氣に對する治療代、金利等合せての請求であつたのであります。

娘の方では一日平均六圓としても一ヶ月に百八拾圓一ヶ年に二千百六拾圓、四ヶ年に八千六百四拾圓は稼いで居りますから、例へ食料、藥代、衣類等をいくら高く見積つて引いても尙四五千圓は儲つてゐる筈でありますから是非暇をくれと迫つても、一向に取合わないので遂に八百圓の前借で娼妓になる爲、今此處で樓主と會見をしたと言ふ話でありました。

娼妓には法定年限がある爲、四年なり、五年の間務むれば、例へ借金があつても廢業が出來ますから、それを楽しみに今一度苦界に身を沈めるのですと言ふ話で、流石の私も思わす險が熱くなりました。

私は廢娼縣下の私娼の亂脈振り、更に飽くなき搾取状態を讀者の皆様理論的に申上げるより、實話を申上げた方が早やわかりと考へまして斯る方法を以つて申上げてきたのでありますから、その點御了解の上何かの御参考にして戴きたいのであります。

## 廢娼縣下の状勢と實例



和歌山縣は皆様も御承知の如く、非常に氣候に恵まれた、風光名眉な土地で紀州密柑の本場として有名な土地であります。同縣下には東牟婁郡新宮町浮島、同郡大島日高群大島、日高郡糸谷の三個所に極く少數の遊廓があるのみで和歌山市を始め其他にはないのであります。

廢娼運動者として硬派である衆議院議員松山常次郎さんも當地の出身者、氏は何時も廢娼論を論ずる毎に出生地である和歌山市に公娼のない事を一つの誇りとなされ、又反對論者に向ふ武器とされて居る様であります。

事實私共の姉妹關係にある大日本更生社の幹部諸氏と論議された時も相當根強く引合ひに出されお國自慢とされた爲、同志が事實を指摘して反駁した處頑固な松山さんも一言も發する事が出来なかつたと言ふ事でありました。只これだけではおわかりにならないでせうが、和歌山市は蜜柑で有名であると同時に又梅毒の多い事も又名物の一つであつて、鼻柱の崩れてゐる人、首すじに穴のある人等行き交ふ内に偶々見つける有様で、全く言語に絶した醜狀であります。當地の方に飛んだ酷評を申上げて誠に申譯けありませんが、土地の代表者がその土地の腐敗墮落をお存じないと言ふ事は縣民に對する不忠實であると思ふのであります。萬一お存じであつたとすれば、足下の亂脈の淨化に務める事なくして他を攻撃する事を以つて縣民への誇りとしてゐるが如き尙更その無貞操無自覺を責めなければなりません、と同時に、私共國民として可様な事は實に恥ず可き事でありまして、無力な代表者を當にせず和歌山縣民の努力によつて改革して戴き度い念願から、本書の序いでに苦言を呈した譯でありますから、惡しからず御了解下さいます事を重ねて御願ひする次第であります。

讀者の皆さんには前述の一言によつても御推察が出来た事と存じますが、更に詳細に申し上げますと、當地には成程公娼なるものはありませんが、旅館料理店等は殆んど私娼屋なのであります、然も他縣の私娼は誤魔化し的にでも衛生設備がありますが、和歌山市及近接の私娼屋には衛生設備は皆無なのであります。

更に當地の私娼は如何なる方法で客を誘惑してゐるかと申上げますと、小料理屋は、酒を注文致しますと直ちに客を二階に上げてしまひまして、賣淫をなすので離れ、屋根裏等に室があり外部から想像の附かぬ様な個所で所謂密淫行爲が行はれるのであります。之が決して一部の料理屋のみでなく、殆んど全部の常習となつて居りまして、甚しいのになりますと、そば屋から煙草店迄が娼婦を抱えて賣淫を行つてゐるのもあるのであります。

尙地の南端にあります高野山が天下の靈場であることは全國民の知る所でありまして、昔は女人

禁制と申しまして、女子は一切登山を許されなかつたのであります。かの石童丸の話も日本國民には有名な物語りとして何人も知る所でありますが、その靈場高野山の鶯谷と言ふ一角に高野化町と言ふ所が出来まして、參詣人も當山僧侶もゆで章魚となつて、白首女に戯れてゐるのであります、そして一代の英僧弘法大師の靈を慕ふと言ふよりもこの白首女を慕ふ者が多いと言ふのでありますから、公娼のない天下の靈場も全く當てにならなくなつたものであります。

.....

以上の例は、和歌山、郡馬縣であります。此の外我が國國際港たる横濱には曙町に之等私娼窟が眞金町遊廓と並んで教十軒あり、更に本牧にはホテルと言ふ名稱の下に、外人及不良紳士を専門とする、比較的遊興費の高い私娼窟があります。然も此の本牧の私娼窟は電柱や、新聞に堂々と廣告をしてゐるのであります。當局は何故か此の違反廣告に何等の制裁も加へてゐない様であります。本牧ではスターホテル、キヨホテルと言つたのが代表的なもので、その外大小合せて七十軒程あります。全部入口に大ホールがあり、賣淫婦が十五六人から二十人近く居りまして、客が自由に女を選んで室に伴ふ様になつてゐるのであります。丁度遊廓の張店當時と同じ事になつてゐるのであります。

廢娼運動の先驅者松山常治郎氏が和歌山縣出身と同様に志を共にしてゐた故三宅馨氏も當地横濱出身の代議士であつた事も讀者の皆さまは御承知であると思ひます。次に名古屋、豊橋、岐阜、岡山等を始め、凡そ全國を通じ、遊廓のない町は相當にあります。私娼窟ない所はないのであります。

殊に廢娼運動の方々が双手を上げて凱歌を謳つた長崎、丸山遊廓を始め外に三ヶ所の遊廓の廢止後にをける私娼の亂脈と、風紀の頹敗は、實に言語に絶するものがあります。私達女性の立場から苦界の同性を救済する事は當然の義務ではあります。一人の救済を以つて數倍の犠牲者を出しより墮落せしめる結果を見る事は、大いに考慮せなければならぬ事ではないかと考へるものであります。

然も娼妓の前身は、既に此の道に轉落した女であります。酌婦、仲居と言つた、私娼、或は、本牧、玉ノ井、龜井戸の如き一口に賣笑婦と名附けられてゐる女性でも多くは純眞な處女から出發してゐると言ふ點を見ましても、私娼撲滅が急務であらねばならないのであります。

私は十數年來同性の救済と風紀、衛生の淨化を計る目的で、國際的輿論と迄云われてゐる廢娼論と聊か意見を異に致しまして、此の問題を研究して参りましたが、研究すればする程廢娼運動者の

心意が解せなくなりますますと共に、此の運動が盛んになればなる程、賣笑婦は殖へ、風紀は亂れ、病毒は蔓延すると言ふ、反對現象が起るものと考へるのであります。

更に廢娼縣下は悉く賣娼婦の養生地であると極言し得られると同時に、又廢娼運動も賣笑婦の猖獗に拍車をかけて行く運動であると斷言するものであります。

### 身賣防止と酌婦の激增

廢娼縣下は賣笑婦の養生所であり、又廢娼運動は賣笑増加を拍車するものであると云ふ事を既に申上げましたが、之に對する理由を詳細に述べて置く必要がある様に思ひますから、廢娼地の實狀と私の持論を加へて参考に供する事に致します。

廢娼地は、郡馬縣を筆頭に秋田、青森、長崎等外數縣でありまして、單に縣會を通過したのみで依然として遊廓の存在してゐる所と郡馬、秋田、長崎の如く公娼制度の消滅した所とありますが、公娼制度の消滅した土地を引例とする事が最も適當であり、皆様にもよろしく了解して戴けると思ひますから、主として實施地を以つて説明する事に致します。

昭和九年から昨年にかけて、廢娼運動の變形である、娘身賣防止運動が東北六縣を中心として相當強硬に行はれました爲、娼妓登録の申請は殆んど不許可となり、中には貸借取引が済んでから半歳一年と延期された結果、不許可となつたのが多いのであります。處が不作に見舞はれ娘の奉公によつて糊口を凌ぐ状態にある關係上、どうしても娘を出さなければならぬ氣の毒な羽目に落ちて居ります農家では、身賣防止運動の言に従ひ、女中や子守奉公に出せば一番無難ではあります。本人の口過ぎ位で、一家の經濟の足しにはならず、娼妓の許可はされず結極女中奉行と言ふ名義で雇ひに来る、料理屋の酌婦、或は私娼屋に前借で務めさす様な結果になつたのであります。

殊に山形縣地方に於ては遊廓への彈壓が厳しかつた爲、同地から娼妓になる娘達は高崎、前橋、青森方面へ私娼として流れ込んだのであります。前橋の私娼屋を最近調査致しましたが、身賣防止の最も盛んでありました。山形方面の女が多數を占めてゐるのであります。理由は前述の如く女中名義で二百圓以上の前借を以つて雇ひますため、生活の道をなくした親は、喜んで承諾し、又防止論者も運動の目的が廢娼にある爲め賣淫である事を察知し乍ら、之に對しては容喙せない爲兩々相俟つて、私娼屋が毒芽を磨くに好都合であつたのであります。

扱て抱へられた娘達は其の日から人肉の市に身を晒らさなければならぬ運命に置かれて、女中

と言ふ夢は一瞬にして破られたのであります。

日が経つに従つて半ば自暴自棄になり身から進んで黄金の奴隷にならうとするのであります。一方身賣防止の影響を受けて、娼妓抱え入れに困つた貸座敷業者は此の酌婦私娼を抱え入れやうとかゝつたのであります。山形地方から娼妓として抱え入れ様とした時は複雑な理由を附して許可されないものが、一旦酌婦となつたものを雇ひ入れる場合は許可されると言ふ矛盾な現象が生じて來たのであります。そこで私娼屋の方では不必要な人數を雇入れ酌婦の許可を得てから更に貸座敷業者に幾分利益を取つて手放すと言ふ仕末でありまして遊廓業者への彈壓と身賣防止は斯くして私娼窟への好餌を與へたのみであります。

女の方でも密賣淫を強請された結果、二百也、三百也の前借を清算して、五百圓也、六百圓也で遊廓への轉身は寧ろ希望すると言ふ様な心理状態になつて居ります爲、容易に承諾するのであります。

以上は結果論から不徹底な事實を指摘したのであります。私は廢娼運動と、身賣防止運動は本當に哀れな同性を救済する目的でやつておられるのか、或は未だ國際追従主義を保持してゐるのか、將又賣名的であるのか、今一つは只なんとなく貸座敷業者を脅懲する目的にあるのか、各方面から觀察致しましても愚鈍な私には解する事が出來ないのであります。

最も廢娼論者の意見を聞きますと、其の、何れをも強調して居るよふであります。何れも實行の伴はない理想論としか考へられないのであります。

娘身賣りに就きましては東北地方に限らず生活の窮乏が原因して居ります事は申す迄もありませんが、或一部の社會では娘を賣る事を常識としてゐる向もあります。斯様な人は女の兒を分娩すれば黄金でも生れた如く喜び年齢に達するのを待ち兼ねると言ふ事でありまして身賣防止を徹底させますには先づ地方農民の生活を確立させ同時に此の誤つた思想の改善が先決問題であります。

## 賣笑婦を作る廢娼運動

確か昭和五年であつたと思ひますが大阪中之島中央公會堂で、矯風會大阪支部主催で廢娼大會が開催されました。其の時、久布白落實さんが演説の劈頭で

箱根八里は一飛びの今日、未だ江戸時代の殘骸、吉原の一廓を残す事は……

そうして業者に向つて直ちに廢業する事は困難でありませうが、今から用意をして一年なり二年後

に、廢業せよと言ふ様な内容の演説をなし、關西業者を憤慨させ、第一日は遊廓業者によつて會場を占領されて丸潰れとなり、二日目に警察官の總動員でやつとの事終了したのでありました。

越へて昭和六年、同じく大返中之島公會堂で私の關係する日本婦人更生會主催で、私娼撲滅の演説會を開いたのでありますが、之を契機として貸座敷業者と全然その立場を異にしてアンチ廢娼論が高まつたのであります。當時大阪毎日新聞紙上で徳富蘇峰さんが、泥棒にも三分の利ありと言ふ様な酷評を私共に向つてされた事があります。以來廢娼運動には、貸座敷業者も相當傷められて來た様であります。又廢娼運動に對しても相當強硬な反對運動をなして、公娼存置を死守して來たのであります。

此の三ツ巴の抗争は刻々と峻烈を極める様になりましたが、廢娼論者の巧みな宣傳術に反し、貸座敷業者の運動は、相當な費用を投じながらも常に我田引水に解され、輿論は極めて薄弱であつたのであります。處が私共の投じた私娼撲滅の聲は突如として社會人の注目を引き果然第三者の廢娼反對論が強くなつた爲、廢娼論者の優越感を壞す様な形に變化してしまつたので、今度は戦法を替へ、潜行運動を行ひ更に關係團體から當局者に取り入つて、身賣防止運動と言ふ新戦術を用ゆる様になつたのであります。

此の巧みな呼び聲は一部官吏を刺戟し、貸座敷業者への彈壓となつて來たのであります、最も著しかつた山形方面に於ては遊廓の入口に制服の警官が立番をしたと言ふ様な事も、その真相は分りませんが、話だけは聞いて居ります。

處で私娼の方はどうであつたかと申しますに、前項でも申上げました如く、極めて簡単に許可され、年齢に於ても娼妓の満十八歳以上に反し十五六歳の子供が使用されると言ふ具合でありますので、無自覺な一部遊廓業者をして轉向の氣運を起さしめたのであります。東京洲崎遊廓の轉向騒ぎ等も、之に端を發してゐるのであります。私共は私娼撲滅の手段として暫時公娼存置改善を必要とする見地から、遊廓業者には相當手厳しい改善案を要求し、一方では徹底的に私娼撲滅を叫んで兎に角も現状維持を保つたのであります。

當時反對論者からは、遊廓業者の走狗の如く誤解され、又轉向希望の業者からはあらぬ中傷を受けたものでした。

更に面白い一つの現象は、廢娼の輿論が一部の新聞紙を通じて廣まると、直に私娼窟の殖へた事でありませぬ。

之は遊廓が消滅すると占めたとばかりに手を延して私娼屋の計畫が早く實現された事と、うろた

へた業者が第二の手段として私娼に手を廻した事があります。  
 恰も飯の上の蠅の如く、一方を追へば一方に集まる有様で、此の計畫も何等の意味をなさない事は繰り返して申上げた如くであります。

廢娼問題には必ず私娼の跋扈が附隨されてゐるもので、最も新しい例は名古屋でありませう。一昨年愛知縣が廢娼の豫定地となり、中村遊廓、稻永遊廓等が解消すると言ふデマが飛びますと直ちに名古屋市東方に城東樂園と稱する私娼窟が約二百八十軒出來たのであります、然も十五六歳の少女を並べて人氣を呼んでゐるのであります。婦人の貞操擁護の爲の廢娼であるにも拘はらず、この私娼窟の出現には監督當局が黙つてゐるのでありますから、全く笑止千萬と言わねばなりません。

然し、飽く迄も公娼制度を死守せんとする貸座敷業者は、一部の軟弱分子を切離して、全國の結束を固めた事は言ふ迄もありませんが、私共の廢娼論以上痛烈な改善案は相當遊廓業者に反響したものと見えまして、今日迄の如く單に營利的な改善のみでなく娼妓待遇改善に相當自覺して参りました事は本年各地の遊廓を視察致しまして知り得た事實でありますから、参考迄に一、二例を附け加へて置ませう。

岐阜縣金津貸座敷組合の共同炊事

之は全廓が樓主及び娼妓から雇人迄一率に此の共同炊事場の献立によつて食事をなし、娼妓に對

炊事委員長		會計		炊事委員		係		
昭和十一年自四月一日至四月十日 献立豫定實施表 金津組合共同炊事場								
月日	區		稱名	區		稱名	區	
	朝	食		晝	食		夕	食
(日)	品使用	數量	品使用	數量	品使用	數量	品使用	數量
(水)	汁ミジシ ネ玉焼 ギ子麩		煮魚 (ブリ)		煮豆 大豆			
(二日)	汁噌味 干菜		右干切大根 芋		佃時雨			
(三日)	同右 ネ豆 ギ腐		オシカ 大ジャコ 根		煮蒟蒻 蕪			
(四日)	汁ミジシ 三玉焼 ツ葉子麩		發蒲鉾 竹蓮根 子味噌		守口細根 大根			

(十日) 金	(九日) 木	(八日) 水	(七日) 火	(六日) 月	(五日) 日
同 ネ豆 ギ腐	同 右 干 菜	同 右 白 菜	： ネ豆 ギ腐	汁噌味 干 菜	汁噌味白 豆 腐
付 煮 蓮竹 根輪	ツカフビ リ玉パ牛 ケン ン 粉子粉肉	シタシオ ゴ法 蓮 マ草	和噌味 ネタ ニ ギシ	付 煮 アヒ ジ ゲキ	典 み玉蒲鯛 か子鉾鹽 ん鹽赤出焼
豆 煮 花 豆	日本橋漬	干淋味 梅 干	煮 佃 海 老	紫草卷	漬良奈 胡瓜漬

する待遇を改善したのであります。

右献立の中で夕食に副食物が比較的少いのは、接客本位であるだけに、夕食はお客さんの料理をお馳走になる事が多いので減少してあるのだそうですが、此邊は流石に商賣人であります。

稼業廢業の時の精算書(寫)滋賀縣彦根遊廓

(一例)

精 算 書

一金參百貳拾五圓八拾八錢

右ハ昭和六年五月十四日起業以後昭和十一年四月三十日廢業に至ル迄ノ積立金(花一本ニ對シ四厘ノ積立)

一金貳百參拾圓八拾四錢

右ハ同上期間中席主ヨリノ立替貸金

一金貳百五拾圓也

右ハ五ヶ年間娼妓稼業無事終了ニ付特別賞與  
右ノ通りニ付

尙此の外、希望者に對しては裁縫、生花等を教へてゐる様であります。入院患者に就いても醫師看護婦長等が指導者となつて主婦の常識となる様な教導をして居りますが、此の點は遺憾乍ら全國何れの病院にても永續性が貧しいと言ふ事を病院長から聞かされました。之は要するに時間的に制限のない、然も遊ぶと言ふ事が一つの職業化してゐる特殊環境に置かれた習慣の爲、形にはまつた堅苦しい事には堪へられないのではないかと思ふのであります。この事實は私達が日常子弟の養育に當つてよい材料である様に思へます。

## 女性の貞操と經濟組織

公娼、私娼何れに致しましても賣笑婦に轉落致します者はその多くが經濟上から來て居ります事は言を俟たない事であり、現在の様な經濟狀態の行き詰つた機構に於ては、餘程の勞力又は特別の技能でもない限り女性の獨力では生きて行かれないのであります。殊に父兄の失業時代に於ては、家計の補助をするにおいても困却せる經濟を救ふには、他の低廉な給料による職業では間に合はず、遂に無資本で多額の金を得る賣淫に落ちて行くのであります。

次に自己の虛榮心から美しい衣服や、理想の戀愛を夢見て徘徊する中誘惑に打ち敗け墮落して行く所謂、生れ付きの淫蕩的女性が賣笑婦になつてゐる例も少くはありません。

然し何れに致しましても經濟が最大の原因である以上之を全廢させ、之等女性を救済するには經濟的の對策を講じなければならぬのであります。

更に大なる問題は女性の貞操を物質によつて得、自己満足してゐる男性の品位の下劣さであり、如何に經濟難から賣淫が激増致しましても之を求める男性がなければ成り立たないのであります。ますから自然淘汰されるのであります。驚く可き事には、單に暗の花を求める之等男性の數が増へてゐる事であり、

玉ノ井、龜井戸に押しかける飄客も毎夜萬を算し、又遊廓に於ては客數は年々一割乃至二割増加してゐるのであります。

要するに此の實例より見ますと需要、供給の相互發展と言ふ事になつて居ります。

此の飄客の増へて行きます事を調べて見ますと、各方面に分類されますが、主なる原因は機械工業の發達と、女性の街頭進出に伴ふ就職難から男子の收入を極度に低下させた爲、晩婚、或は獨身



者の多い事が斯くの如き結果を生んでゐるのではないかと考へさせられるのであります。尤も之に對して或る年齢に達した男性には結婚をさせ、經濟能力のない者には國家が保證せよとか或は精神修養によつて性的慾望を抑へよとか極めて理想的な議論を強調される方もありますが、男性に對して結婚の保證をする程國家の經濟も豊ではありませんし、又後者の精神修養も申分のない理想論ではありませんが、現在の國民教育ではおそらく難事であつて、兩者共に有閑人の癡言としか考へられません。更に一つの原因は壯年期に達した男子が性的必然の變化は學問や環境によつては強制出來得ないものであつて、敢て強制した場合は、健康を害するのであります。之は遺憾乍ら醫學界に於ても既に證明して居る事實でありまして、前者の經濟問題と相俟つて飄客増加の原因となつて居るのであります。

密賣淫の増加は廢娼運動の餘波を受けて、取締が緩慢になつた理由も附帶されますが、失業者を利用して不良分子の暗躍が一層拍車してゐる事は云ふまでもありません。これは既に申述べました事でありまして、繰返す必要はなき事と存じます。

要するに貞操や、道徳よりも生活と言ふ經濟觀念が助長された所謂文明病の一つでありませう。複雑な社會の研究は殆んど一寸の隙もない迄になし盡くされて居りますが、賣淫問題に就いては

對岸の火事として評されてゐる様な仕末であります。然しこれは社會更生の上からも、人智の向上からも捨て難い問題でありまして、深く研究を致しますと、これ程各階級を通じてゐるものはないのであります。土管生活のルンペンから高等教育を受けた紳士、淑女に至る迄連類いたして居りまして、恐らく眞面目な人間の常識では判断がつかないのであります。

更に有産階級と無産階級が非人道的に結れてゐる特殊の世界こそ、我々人間社會の姿ではないでせうか？。

私達の常識から考へますと賣笑婦の生活が實に悲惨に見え、一日も早く家庭にかへればよさそうに考へますが、本人にして見ますと、一日の食料に不自由する家庭よりも、遊女生活の方が餘程幸福であると言ふ様な仕末で、第三者の思ひやりは裏切られるのであります。私はこの解き難い謎、皮肉な事實、不均等なる社會機構を考へます時に、キリスト教徒や、學徒の理論にも眞理のある事は充分肯定するものでありまして、萬一之等の理想に事實が伴ふと致しますれば、第一陣に立つて賣淫撲滅を絶叫するものであります。

然し乍ら、私達人間生活は哲人の言葉の如く矛盾が原理となつて、常に、或る恐怖を抱き、不純な慾望に追隨して回轉してゐるのであります。

交通機關の發達は廣い國土を縮少致しまして未開當時の徒歩の苦しみは交通賃金の苦しみと代り教育の進歩は人間の向上を計つた反面に、經濟的な負擔を與へ、女性の勇躍は働く事を以つて本質とする男性の職場を奪つて行く様な結果になりました。

人道論を以つて叫び掛けた廢娼運動は、一部に遊廓の縮少を見ましたが、更に數倍の私娼の跳梁と、性病の蔓延となり、同情された籠の鳥は箱の鳥と姿を替へて生活をしなければならぬ有様で全く空氣の抜けた護謨毬の如き社會狀勢では、絶娼と言ふが如き理想は望み得られないのであります。

有産階級、無産階級、インテリ階級、勞働者階級等々千差萬別の社會組織に、一率の定義を當て絞める事は不可能な事でありまして、廢娼運動も凡そ此の不可能な、然かも矛盾な道程を歩み乍ら勞力の亂費をしてゐるものであります。若しも眞實に同胞愛があつて、私達同性を救済せんとするならば事實目の前に横たはつて居ります私娼窟に誘惑され、吸血鬼の搾取に呻吟する數十萬の娘を救ふ可きであります。

婦人の社會運動はあらゆる方面に擴張され効果も上つてゐない事はありませんが、賣淫問題に對しては公娼廢止以外に提唱されず、私娼には其の實狀を知つてゐるのか？或は無知識の爲か一向に願ひみやうとしないのであります。

公娼廢止が人間愛から來てゐるものでありと致しますれば、公娼廢止運動程、變質な愛はないと考へます。と同時に現在のキリスト教徒程イエスキリストの本旨に逆ひてゐるものはないと考へます。何故ならば、世界の四聖人と言われたキリストは斯様な偏狭な愛の持主ではなく、全人類を平等に愛されたからであります。此の變質的な廢娼論者が目の仇とする公娼の實際調査を致して見ますと、前にも述べました如く衛生的にも收入の點に於ても、充分に當局者の取締が行き届いて居りまして、寧ろ安全地帯に置かれてゐる様であります。私娼に至つては實に悲惨なものであります。純眞な處女から、吸血鬼の無茶苦茶な搾取に遇ひ綿の如く疲れ切つても尙解放されず、殆んど八割迄がこれを逃れて公娼に轉向し、自由な身になつてゐるではありませんか？私は決して貸座敷を賞讃するものではありませんが、美辭を以つて事實を否定する事は出來得ないのであります。

假に私の言葉に對し疑問を差し挟まれるならば、公娼、私娼、此の兩賣笑婦に對して其の前身を調査されたい、然らば判然とするのみでなく、その事實に呆然たらざるを得ないであります。

人間社會の一分野を構成致して居ります女性が、恰も商品の如く評價され、ショウインドに飾られて居ります。此の實狀は如何に公娼制度が廢止されました處で、資本の擁護から來る防禦策であ

りますから多額の前借金制度が廢されない限り、凡ゆる社會に於て資本家に使用される無産階級の女性は開放されないものでありまして結局は斯うした忌むべき行爲をなさずとも生活の出來得る様に社會の經濟組織を改めなければ、總ての理想は空に終るのであります。

## 廢娼運動の目的奈邊にあり哉

次に廢娼運動の論據を研究いたしますと、次の様な事が列擧されるのであります。

- 一、國際聯盟を背景とする人身賣買問題でありまして、日本の公娼制度が此の人身賣買に低級すると言ふのであります。
- 一、賣淫が認可されてある事は國家的に恥辱である。
- 一、賣淫に制度がある事は日本女性に對する侮辱であつて堪へられない。
- 一、此の制度は教育上宜敷くない。
- 一、宗教上、人道上許す可からざる存在であるから絶滅しよう。
- 一、之を絶滅するには先づ制度の撤廢が先決の問題である。

一、公娼は賣淫の誘導機關となるから之を廢止させる事がよい。

大體以上の如き事が強調の理由とされて居ります。此の理由の中にも軟派と硬派の二派がありまして單に公娼制度を廢止すればよいとして、私娼を認める灰色の論者と、公、私共に絶滅を主張する尖銳派があるのであります。

強硬論者の主張致します賣笑絶滅が、實現出來得るものでありますならば、社會の何人と雖も異論のある譯はありませんが、先づ現在の社會では不可能な曲論でありませう。然し此の理想に向つて一般社會の進歩向上を計る事は申す迄もなく人間に與へられた義務でありまして誠に尊ぶ可き事でありませう。

軟派の方は前後の見通しを附けず、無理矢理に看板の塗り替へを主張するのであります。極めて薄弱な根據から廢娼實施を主張して居りますが、之は結論から考へますと、百害あつて一利なき事は既に申述べた通りであります。

然し乍ら廢娼運動者の大部分が此の公娼廢止私娼黙認論者であるのでありますから、社會運動家とし、救世主を以つて任じる人々も實に怪しいものと言わねばなりません。

同時に之等の人を社會の花形として持て囃す現在の世の中でありませうから如何に人智が發達致し

たと申しましても、未だく國民として活眼を開かなければなりません。果斷なき廢娼運動は實施が至難の爲、當局者を困惑せしめ、折衷案として、私娼化に動いた様でありまして、現在の遊廓を料理屋、ホテルと名稱を替へ、娼妓を女中又は酌婦として、賣淫行爲を默認しやうと言ふのであります。今假りに廢娼論者の言に従つて、私娼を默認する様な事がありますれば、旅館、料理屋の風紀の一層亂れます事は申す迄もありません。そうでなく共現に温泉地方面の旅館は相當風紀が亂れてゐるのであります、若し之が實現致しますと公然と賣淫が行なはれ、眞面目な旅館料理店迄同一視されます事は當然の歸結でこれこそ旅館料理店に働く女中仲居の如き職業婦人に迄大汚點を殘すものであります、現在の公娼の存在以上に日本女性の恥辱となるものであります。

尤も温泉地方面の料理店旅館等では、女中、酌婦、藝妓の賣淫が盛んに行なはれて居ります關係上、私娼默認に對しては何等の異存はなく寧ろこれの實施に相當根強い裏面工作が行なはれてゐる様であります。

文明の進歩は全世界を縮少しまして、かつては、東洋の弱小國とされて居りました吾か國も、今日では全世界に冠たる勢力を示しまして、各國人争つて來朝する様になりました事は日本國民として大きな誇りでありますそれだけに私達日本人もそれらの來訪者に對して、失望させぬ様努力せねばならないのであります。

云ふ迄もなく此の來訪者の慰安は日本國民の大きな人類愛の發露からであります、又一面に旅の疲れを慰はせるホテル、料理店等の重大性を看過する事は出來ないのであります。そのホテル、料理店が賣淫を行ふ様な事が若しありましたならば、來朝者にどんな感じを與へる事でせう？ これこそ國家の對面上、由々しき問題であります。

殊に第十二回オリンピック大會も我が國と決定したる今日、潔白を以て誇りとする我國の旅館、料理屋の使命は一層大でありますから、法治國の權威の上からも斯様な愚論に迷はされてはならないのであります。

## 教育上の見地から

現在の遊廓が大夏高樓であるから教育上宜敷くないと云ふ議論もありますが、それでは現在の私娼窟の如く間敷の小さな家で、數人の女が賣淫を行ふ、その結果影響はないと言へませうか？、家屋が小さい爲安住する子弟達の目に耳に直ちに觸れる事になるのですが、之は教育上どうなりませ

う、それよりも至る處に散在して居りますガフェーの現状、民間私娼、斯うした存在に對して善處して行く事が先決の問題ではないでせうか。

私は寧ろ公娼廢止運動を盛んに行つて、新聞雜誌に宣傳し、一廓をなして一般人と交際を斷つてゐる遊廓及び其他の賣淫問題を兒童に迄知らしめた、それ自體こそ教育に悪影響を及ぼしたのではないかと考へます。

且つて公娼廢止運動の盛んなりし頃、新聞の見出しを見た子供に「お母ちゃん、公娼廢止つてどんな事ですか？」と質問されて當惑した事がありました。兒童の頭に映じた此の疑問は、如何なる想像をその幼ない腦裡に植付けて行くか？世の指導者の一考を要する問題ではないでせうか？。

### 制度の廢止は非國民の製造である

今更申す迄もなく我國は世界に誇る大家族主義の國家でありまして、國民は欽定憲法に従つて生活をしてゐるものであります。

#### 一、教育の義務、

#### 一、徴兵の義務、

#### 一、納税の義務、

此の三大義務は國民共同生活の最大要素でありまして、國民が何れに不忠實でありましても國家の勢力は消滅するのでありますから、私達は終生この義務を遂行し、憲法に従つて國運の隆盛に盡力しなければならぬのであります。

然るに法令の禁止する賣淫行爲が默認される事になりますと、法の精神はどうなりますか？

廢娼論者はよく申されます。私娼の跋扈は時代の流れだと、私達は斯様な不謹慎な言語は斷呼として否定しなければなりません。又日本憲法は斯様な時代病に左右されるものではないのであります。國民が墮落し、不法行爲が盛んになればなる程、嚴肅なる法の制裁が必要であります。そこに初めて法の價值が生じて來る譯ではないでせうか。

平和に制裁のない事はキリスト教的通念でありまして、文化の陶醉者は善惡を辨まへず、只時代の波に順ずる事を以つて文明人と心得てゐるからであります。斯る人々は公娼が私娼に轉向した場合も、時代の流れとして默認し、既に述べました如く罰金刑を常習とするのでありませうが、若し國民をして斯様な觀念を與へたならば、それは國民に犯罪の動機を提供してゐる様なものであります。

して、非國民を製造する事になるのであります。

## 第四章

### 廢娼論者によつて作られた公娼

密淫賣を論ずる上に於きまして、本書にも多數「公娼」の字句を用ひましたが皆さん方の通念となつて居りますから解り易い爲、敢て羅列したのであります我が國に「公娼」なるものは絶対にありません。

内務省令にも公娼制度と言ふ制度はないのであります貸座敷營業となつてゐるのであり、又子女に對しては娼妓取締令によつて規定され、賣淫行爲は之以外許されてゐないのみ警察犯處罰令を以つて媒合者も本人も共に處罰される様になつて居ります。

廢娼論者が勝手に公娼の字句を附して、又自からその字句を取り去る爲、四十數年間盛んな運動を續けてきたのでありますから笑止の沙汰で、「籤を突いて蛇を出す」の言葉は斯様な場合に引用

されるのでありませう。

現在の娼妓取締令を制定する迄にはその歴史と實狀に照し深甚の考慮の結果、必要に迫られて定められたものでありまして、不用意に解消することは先輩識者の努力を空にするものであります。廢娼運動の人達は單に目的が貫徹すれば、後日の紛騒、即ち、風紀の頹敗や、衛生問題には何等の責任もない譯ですが取締官廳たる内務省では、最後迄一切の責任を加擔される譯でありますから、輕卒に之等の人々の言に左右されてはならないのでありまして、全國民の庶政を司るだけに一方に偏する事も出来なく、斯様な問題が擡頭すればするだけ、當局者の惱みとなるものと考へますが、我々國民大衆としては、徒らな我田引水を捨て、當局者の手を患はず迄もなくよく社會の表裏を洞察して明朗なる社會の實現に努力しなければならぬのであります。國家隆盛の上に最も大きな禍ひをなすものは數多の青年子女を蝕む花柳病の蔓延であります。文明社會の惡病たる花柳病は年々其の數を増し、然も凡ゆる階級を通じて浸蝕してゐるのであります。醫術の進歩した今日、遺憾乍ら根治が殆んど不可能とさへ言はれてゐるのであります。

處が此の忌む可き病毒は殆んど公娼より傳播されるものと解釋されておりましたので、遊廓に對する檢査は特に嚴重を極めた爲、今日では萬全を期し得たと迄言はれて居ります、この遊廓に對する警戒の念は遊廓の衛生設備を計る上には非常に好都合となつたのであります、然し之が爲他を警戒する事が出来なかつた事は、大きな手落ちであつたのであります。

即ち遊廓に於ては社會的となつてゐる爲案外病毒の傳播が少かつたのであります、一般が注意しなかつた私娼の傳播率は驚く勿れ、公娼の數倍であつたのであります。

此の偏狹な見地が花柳病の猖獗を極めしむるに至つた最大の原因となつたのであります。

公娼が何故に花柳病に注意をすかると申しますに、當局の取締りが嚴重なる事は勿論であります、娼妓自身が患者となりました場合は全治に至る迄營業が禁止されるのであります、此點私娼は自由で、歩行さへ困難になる程病勢が進んでゐても、體力の續く限り接客するのでありますから傳染率の多いのは當然の歸結でありませう。

更に花柳病に次いで家庭悲劇の種となるのはやはり公娼より私娼に多いのであります。その理由は公娼は年限制度になつて居りますから妓樓以外で客に接す機會がない爲、男子との關係が餘り深入りをせないであります、私娼（殊に）散娼に於ては比較的自由的な立場にある爲接洽の機會が多く、従つて深入りをする様になりまして、妻ある男を誘惑する様な仕末から家庭悲劇の種となるのであります。

賣淫の存在によつて平和の家庭を亂す様な問題は多々ある事實であります。何れも同性であります以上此の問題に對しては充分の研究と考慮とを以て、萬全を期する事が、之又別な意味で、女性の權益擁護ではないでせうか。

### キリスト教と公娼及佛教の眞理

凡て動物は食慾を有して居ります、更に食慾が満たされた時は本能慾が出て参ります、常に賢者を装ふて居りましても、活動力を有するものには必ず此の深刻な悩みがあるものであります、聖者と仰ぐキリストも、釋尊も一個の人間として此の問題には終始の悩みを持つて居られたのであります。

その爲にキリストは、十字架に流血の終焉を告げ釋迦は妻子を捨て難行苦行をなして、人類淨化の爲身命を抛げうつたのであります。此の二聖人の一代の苦行は數千年の後、聖書とな、佛典となつて、我々の教化材料となつてゐる事は今更申上る迄もない事でありませう。

釋尊も、その始めは本能より來る罪惡を感じられました、これを抑制する爲の手段として五戒、

十戒百五十戒等の戒律を設け禁慾主義を立てられたのであります。

キリストも亦同様に、殺すな、憎むな、人を侮蔑するな、争ふな、貪ぼるな、色慾を以て女の事を思ふな等の垂訓を遺されたのであります。

此の精神を受けついでトルストイは、例へ妻と雖も色慾の對照として取扱ふ事は、姦通罪を犯す事になると言つて居りますが、更に斯した傳統的な指導原理に従つて、キリスト教では單に色慾を本として女に接する事は姦通と斷定してゐるものと思ひます。

廢娼運動の根本も之から出發してゐるのであります。公娼制度の如きは姦通罪を公認してゐるものでありますから、人類淨化の上に斯くの如きものは讚美する事は出來ないと言ふのであります。その主張點は誠に尊いものと云へませう、然し乍らこの理想と事實の伴はない事は、私達人間社會に限らず、聖人の域にも繰り返へされてきたものであります。釋尊は早くも此の理想と事實の相違を認識されたのであります。その釋尊でさへも本能慾の檢討には四十五年の歳月を費消されたと言ふ事があります。釋尊は其の結果次の様な事を悟られたのであります。

無明、行、色、色妙、六入、獨、受、愛、取、有、生、死、即ち十二因縁であります。之を簡單に説明致しますと、



- 一、無明は兩性に内在する本能慾の發動、即ち戀愛であります。
- 一、行は男女の結合……結婚、
- 一、色は受胎……妊娠、
- 一、色妙……妊娠四ヶ月以上を指すもので手、足、耳、鼻、男女の性別が判然として人間の形の出来る事であります。
- 一、六入……分娩……人間の精心の中、精は父母より受けたる精氣、心は出産と同時に備はる靈即ち流轉不滿の魂でありまして、此の二者を精心と申すのであり、これが佛説で云ふ六入であります。
- 一、獨……六歳迄の幼兒を指します。
- 一、受……七歳より十五歳迄の智識慾の盛んになりかけた時代、
- 一、愛……青春期
- 一、取……結婚期から世帯盛
- 一、有……人生の業務を大半果して子孫と財を得た老年期、
- 一、死……人生の終局

一、生……死の次に來る生でありまして生死は一如であります。

死より生へ、生より死への循環は兩性を中心として繰り返へされてゐるもので、地上の生物は凡て此の理によつてゐないものはありません。性は即ち生物の生命の原泉であつて、健全なる身體より發生する自然の力で、之を禁制する事は自然の逆行であつて、人類の發展を阻止する事になります。釋尊は此の理を悟られ戒律をなげうつて人類界に於ける貧富貴賤善惡の根本原理を究明されたのであります。人間一生の幸、不幸は十二因縁に於ける無妙より、行、色、色妙、六入、獨受、愛、取、有、生死の内無明より六入迄の間即ち兩親となる可き夫婦の性格や行爲が、生れ出る子供の性格を半分は構成する、(胎内教育)獨受、即ち補乳期から少年時代迄は家庭の環境が三分の一の質となり、取、有、即ち壯年期の行動が死と生を通じて六入の時に働く靈となるのであります。此の理に依つて取有の時代に良き行動をなせば善因(効徳)となつて、善良なる夫婦の子と生れ性質もよく、徳も備はりて善人となり悪行爲をなしたるものは非人格者の子と生れて、性質、容貌も悪く、徳のない下賤な人間として一生社會の下積となつて呻吟せなければならぬのであります。

善き行をなしたる者は良き人を父母として生れ、親の威光と自己の徳によつて向上發展し、人には尊敬されるのであります。世に言ふ地獄極樂は決して死んであるものではなく、生れ出る現世

に斯くの如く約束されてゐるものであります。

又地獄、極樂の紹介者も釋迦や、閻魔王ではなく、自己が作つて自己が求める自業自得の運命であります。

貧困の家に生れて賤しき所業をなし、或は犯罪者となつて社會の排撃を受ける人は皆此の見えざる力に左右され拙き人生の宿命を果してゐるのであります。人間は共通にプライドを持つて居りますから、誰しも良き行爲をして理想の地位を欲するのでありますが、多くは半にして不幸に見舞はれ、思ひもよらぬ境地に置かれてしまふのであります。

本書の主題とする賣笑の如きも、その多くが生きんが爲にされてゐる、敢果ない運命の持主であります。幾百萬の人間が貧、富、貴、賤、醜、美と心、顔と形の異なる處は皆此の定義に左右されてゐるのであります。

此の自然の藝術、自然の原理を悟られた釋尊は、惡人を惡人とせず、拙ない因縁に弄ばれる、哀れむ可き衆生とみなされ、罪を憎んで人を憎まず、此の哀れむ可き人々を如何して救済すべきかに務められたのであります。之が釋迦の衆生濟渡の過渡期となつたのであります。彼の有名な法華經であります。今其の一部の信解品を御紹介いたしませう。

或所に一人の長者がありました。その一人息子が何時の間にか家出してしまつたのであります。父親は一族郎黨を上げて捜査をしましたが見附からない。尋ねあぐんだ父親も悲しみの中に十數年が経つて早や老境に入つたのであります。或日供を伴れて遊山を致しました所一人の乞食が立派な行列を遠くから眺めてゐたのであります。長者はふと其乞食に眼を止めて、近侍の者に命じ彼の乞食を連れて參れ、あれは尋ねる我が子らしい。早くくと急ぎ立てた。供の者は命の通り乞食を捕へて長者の前に連れ出さうと致しましたが乞食は、私は決して悪い事は致しません何卒御許をと言つてなか／＼動かうとしない。

供の者はいやお前をとがめるのではないお前は長い間殿様が探して居られた人なのだそれで殿様は是非お前を連れて來いのと仰せだ、……乞食はいやく／＼私は殿様の様な立派な御方の子ではありません。どうぞ御許し下さいと除け出すので近侍のものが無理に捕へると乞食は氣絶してしまつた。此の様子を見た長者は乞食をそのまゝにして置いて引上げてから家來の一人を乞食に仕立て仲間に入れ、心易くなるのを待つて屋敷の掃除番に雇つた。それから段々と昇格させたのであります。そのころ長者は愈々老衰し死の時が近附いたので家督相続の會議を開き、改めてその子に相続させたのであります。

子供は幼少の頃より乞食の仲間落ちて賤しい生活をして来た爲、長者の父に發見された當時は溢れる様なその愛も、幸福も解する事が出来ず、驚き恐れて氣絶したのでしたが父の慈愛で遂に長者の主人となり得たのであります。

之は人間の心に内在する良心を引導して成佛をさせる方便として説いた説法であります。

即ち賤しき業務にある者を救済するには、之を急激にする時は、返つてその者を不幸にするもので、次第に順を追つて正道に立返らせようと言ふ事の教へであります。

賣笑婦の如きも、之を止めさして正業に就かす事は必要な事ではありますがキリスト教の如く罪人呼ばりをして急激に廢業させ、無理に解放した處で生活の道を他に知らない者は路頭に迷ひ、再び惡道に落ちる運命となつてゐるもので、折角のキリストの愛も返つて彼等を苦しめ、結果に於て社會に害毒を流す様になるのであります。

法律は多くの場合現實の治安を目的として、過去未來を論じないが、宗教は過去、現在、未來の三世を通じて人類生活の安定を計るものでなくてはならない筈でありますから、もつと大乘的に彼等の現在を救ひ、將來を約束してやらねばならないのであります。

適當な制度、適切な保護方法を確立させて、思想も人格も高めてやる事が宗教の本旨であり宗教

家の任務でありませう。單に制度のみを廢止するならば現在の私娼の如く營業者や従業員の住所數等も判然とせず、社會に隠れて暗い生活をしてゐるのでありますから、保護も指導も出来なくなつてしまふのであります。

制度を廢して國家の保護から切り離し、宗教の救ひを斷つたならば、彼等は何れに救はれ何時の世に聖道に入り得るのでありませう。

イエスは一匹の小羊を救ふ事に全力を上げたのであります、少くとも十字架を胸に體するキリスト教徒には之位の理がわからぬ筈はないでせう。此の意味に於て制度の廢止は佛教からもキリスト教からも根本の主旨に反するものであります。

今日の廢娼論者は佛教の根本もキリストの主旨も充分極める事なくして、只スバイ的な拜外模倣者の言に踊つてゐるに過ぎないのであります。

## 國家の赤字とモグリ營業

國家は三十億からの赤字に苦しみ、増税くで尙足りなく、終ひには女中税化粧品税迄取らなけ

ればならない様な仕末で、眞面目な國民は税金地獄で苦しめられ、中小商工業者も農村も全くの經濟難で七轉八倒の極に喘いでゐるのであります。

然るに銘酒屋或はグルマ茶屋と稱する私娼窟は全國に十數萬を算して居り、何れも數十軒から數百軒が軒を並べて毎夜數萬の客を吸集し堂々と人氣を呼んで居り乍ら之に對して營業的遊興税は徴收されてゐないのであります。若し公娼制度を廢止する様になれば當然現代の貸座敷業者の税も廢止される様になるのでありませうが、全く以つて不公平な事であります。

現在貸座敷業者の負擔して居ります税金は、營業税、所得税、附加税、特別府(縣)税そして、縣稅市稅等一軒當て約、遊興稅八百圓、賦金六百圓、合計千四百圓となつて居りますが、全國業者を約二萬と假定致しますと、二千八百萬圓の歳入がある譯でありまして、若し制度を廢止するなれば、之だけの歳入が減する事になります。それで地方都市の國家及都市經濟に重きを置く政治家達は皆存娼を主張してゐるのであります。

處が此の事を女子政治家を以つて認じて居る某女史に問へば、……同女史は曰く、……賣淫業者の如き者から税金を取る必要はない、國家の赤字は財閥に負擔させれば解決出來ると、極めて簡單に答へたのであります。私は或る意味に於て自由主義的な女史の眞意を疑がふと同時に之等女性の

運動が一部近代人の間に反映されて行く點に就て甚だ遺憾に堪へないのであります。財閥の資金は我が國の産業界に充分運用されて、その下に大多數の國民が働き、生活の資とならなければならぬものであつて、資本家の富が單に日本銀行のみと取引され、或は機械工業の多量生産となつて國民の勞力が削減されれば、物價は騰貴し、民衆經濟は減少して生活の驚異を感じなければならぬのであります。昨今勞働階級に於て、勞働時間の四時間制とか、又は半日制とか言つて時間の短縮を叫んでゐる様でありますが、此の點は勞働者として今少し考慮の餘地がある様に考へますが又別な機會に述べたいと思ひます。

山に大木のある事は山の價値を存続するものである如く、國家の富豪は國家の富として、之を認め大衆はよく之を監視して宜敷運用して生活を計る可きものでありまして、茲に完全な勞資協調が成立するのであります。一部の勞働運動家の叫ぶ如く財閥打倒は言ふ迄もなく共產主義であつて、國家を滅亡さすものでありますから、國民として絶對認める事は出來ないのであります。

國家の單位は一家であり、國家經濟の縮圖は家庭經濟であります。假りに一家に負債が出來ました場合、家中が揃つて其の責を負ひ、各自節約と努力をすれば一家の經濟は立ち直るのであります。が、一家の負債は家長の責任なりとして他の者が無責任であればその家は滅亡するより外に道はな

いのであります。

國家は今や財政の危機に直面して居ります。宜敷國民は砂上に樓閣を築く様な夢想を捨て、一致協力國家の經濟を認識しその責を負ふ可きではないでせうか？

遊廓及び私娼窟其他大資本を投じて構成する歡樂境には、大いに納税の義務を負わして國家經濟の一部にする必要があります。又民間に於て盛んに風紀を亂す散娼の如きも一廓に集め、加税する事が風紀の改革は勿論、赤字埋めの好材料であります。國家緊張の非常時を外に遊興の巷に足を入れ、又之等の人を相手に歡樂境を營む人に加税し國民の義務を分擔さす事は當然の事でありまして之を黙認する如きは益々遊墮民を作ると同時に國家の經濟更生は望まれないのであります。

## 公娼廢止と輿論の真相

更に強調致し度い事は公娼制度廢止の輿論であります。

昭和七八年頃には公娼廢止と言へば全國民の輿論の如く宣傳され、今日でも廢娼論者は斯くの如く宣傳して居りますが、決して日本國民の輿論ではありません。眞に社會の淨化を考へるものは一

女性であつても廢止の矛盾を考へるのでありまして、賢明なる日本國民の頭に映じない理由はないのであります。心ある國民は現制度の存続と私娼撲滅を望んでゐるのであります、然るに、何故に存娼の輿論が上らないかと申しますと次の様な極めて薄弱な理由が原因してゐるのであります。

- 一、賣淫問題を口にすることは大人げない
- 一、此の利害を識別する程の人は人格者である爲賣淫の世界に關係が薄く、従つて實感がない、殊に智識階級の女性は尙更である、
- 一、男子でも之を口にすれば、其の人が花柳界に出入する遊蕩兒の如く見なされる事を恐れる、
- 一、政治家は存娼運動をやれば遊廓から選挙費等に就き利害關係のある如く社會の誤解を受ける事を恐れる、

- 一、貸座敷業者は打算的で、然も氣が弱く社會的に鬭争力が乏しい
- 一、此の外相當研究を重ね、制度の必要を痛感する者も社會の誤解や運動資金の關係から問題に觸れないのである、

以上の様な理由で十二分の根底と結果の證明を見乍ら國民に理解さす事が出来なかつたのであります。

それに反して、廢娼運動は極めて薄弱な理由と結果の悪弊が、之又裏書され乍らも、此の問題に縁故の乏しい國民を感動させる條件が附されてゐたのであります。

- 一、道德論？と國際聯盟を背景とした爲、名譽心に憧憬れる有閑人は乗じ易い、
- 一、多くキリスト教徒で資金が豊富である爲運動が自由に出來た。
- 一、幹部級は大半歐米智識の論者である關係上宣傳術に丈けてゐる。
- 一、要するに國際聯盟崇拜時代の波に乗つたのと、資金の魅力が今日の社會を風靡し、運動を拍車した爲、此の偏狹な理論が擡頭したもので、所謂勝てば官軍 敗ければ賊軍と言つた具合になつたのであります。

#### ○廢娼運動署名の真相

- 一、次に廢娼運動者が機關紙を通じて發表する賛成の署名が何千とか？ 何萬とか報導されて居りますが、之に署名して居ります婦人團體の會員中、廢娼問題の何たるかを知らない會員が九十%を占めてゐると言ふのが事實で會の幹部が先輩とか……恩師であるとかの關係や、名流婦人であると言ふ名に眩惑されて署名してゐるものが多いのであります。

私が宗教講演の序でに、私娼と公娼の比較をし、公娼制度の必要を説明致しますと廢娼に署名をした人が存娼に賛成して來る様な仕末でありまして、盲目的に署名した愚さを嘆じてゐるのであります。

- 一、又街頭に於て署名を取る事も随分流行つたものでありますが、之も名流婦人達の名に魅惑されて善惡を辨へず面白半分筆を取ると言ふ様な譯で、言はば其の時勝負の實に出鱈目な不眞面目なものであります。然し又國家を思ひ、眞に女性の幸福を考へる女性は、私娼の弊害を充分知つて居りますから制度存続と改善を望んでゐるのであります。斯様な女性は淑徳を旨として家庭を守り夫を助ける事に忠實でありまして、賣名的な大衆運動には参加せないのであります。

- 一、以上の様な事で公娼廢止論は公衆の席上では全く問題にされないものであります。嘗て昭和六年六月大阪府知事別館に於て京、阪、神、社會事業家の懇親會が開かれた事が御座いますが其の席上で娼妓取締規則の撤廢を決議せんとした時に私（筆者）は公娼と私娼の比較を致しまして撤廢決議に不賛成を唱へました處、出席の二十餘團體の代表者は満場一致で私娼取締に賛成し、準備なき廢娼は危険なりとして否決致しましたが。其後も廢娼案を持ち出す毎に私娼が引合ひに出されて否決されてゐるのであります。

一、廢娼議案が衆議院に提出される事も十數回であります、皆存娼論者の實際論で一たまりもなく一蹴されて居ります。

一、滿洲事變以來愈々國家主義が旺盛となり、歐風思想も冷靜に批判する様になつた結果、すべて海外追従主義は轉落したのであります。斯様な事が遂に賣淫問題にも影響致しまして從來の廢娼問題は暗礁に乗り上げんとしたのであります。四十餘年の運動の完成が一步手前で挫折せんとする様になつた爲、廢娼論者は窮餘策を巡らさんとしたものが昭和八年に於ける業者轉向の策動であります。一部の業者を籠絡して、貸座敷業轉向、或は江戸吉原名残りを告ぐ等々の虚報を強てなしたのであります。

一、此の奸策に乗じて地方業者に廢業をしたものが一部分ありますが、その度毎に、『時代の要求……封建の殻を破つて云々』の報導が頻發されて居りましたが、その内容を調査して見ますと虚報も甚だしいもので、殆んど營業防害に近い策によつて、轉業させたものでありまして、娼婦その者は密淫賣婦として殘骸を留め、遊廓は三等料理店、或は達磨茶屋（轉ぶ所からの名稱）として残つてゐるものであります。

（附記）此の事は昭和十年第五十九議會衆議院議員議事録に明白に出て居ります。

一、廢娼運動家の餘りにも卑屈な奸策と、結果に於て社會に及ぼす影響を怖れ、本會は昭和九年六月廿五日東京櫻田本郷町帝國飛行會館に於て社會淨化を目的として三十餘の社會事業團體の譚意を得て、存廢可否の協議會を開催したのであります。勿論廢娼論者と是非の協議をする催しでありますから、婦人矯風會、廓清會、廢娼代議士松山常次郎、星島二郎、三宅磐さん等（現在は故人）の出席を求む可く禮を盡して訪問了解を得ましたが、當日になつて三宅さんが主旨を書いて代理に持たして來たのみで他は電報で斷つて來たのであります。只一人廢娼聯盟の會員某氏が非公式に來たのみでありまして、尤も實際問題として對論する場合一つとして根底ある理論のない事は事實でその爲の缺席ではあります、少くとも社會事業家と任じてゐる人々が餘りにも其の態度の勝手なものには驚きました。又一面論據と信念のない人々の立場を思ふ時、寧ろ哀れさを感じたのであります。斯様な人に限り太平の席上では、勝手な熱をまことしやかに吹ひて居ると思へば、又笑いたくもなつてくるのであります。確たる信念も理由も持たず、救世主の假面を被り民衆を愚弄し、愛國の志士を輕視する廢娼論者が流行兒として騒がれる現世を嘆かすにはおられないのであります。

少くとも社會人のリーダーとして豪語するだけの根底があるならば、何故に堂々と出席して理由を

論じ自己の信念を披瀝させないでせう。

日本國民である以上國民の福祉増進の爲には萬難を排して之に當り、一個の利害得失に捉はれず互譲して事を決しなければ、國家の隆盛も社會の淨化も計られるものではありません。

衆議員議事録にもある通り、内務省の發表でも社會の輿論でもないものを新聞に報導して、我事成れりと乾杯を上げてゐる事は全く狂人の沙汰としか考へられません。

## 公娼制度は人身賣買に非ず

娼妓取締令や貸座敷取締規則が人身賣買に抵觸すると言ふのが廢娼者の立前ではありますが、我國の娼妓制度は歐米の奴隸其のものとは全々性質を異にするもので、玉石混合も甚しいものであります。然も敢て理論付けて奴隸制度なりと言ふならば、廢娼論者こそ日本人としての精神を亡却してゐるのではないでせうか？我が國の娼妓は賣買契約によつてなされてゐるのではなく、前借制度となつて居り、その間一定の期間内に於て返却する契約になつて居ります。その返済手段として貸主の元に働く事が約束されるのであります、従つて身體の拘束は一切なく、外出も廢業も前借金と

は別問題として扱はれてゐるのであります。

貧困者が一時に多額の金を手にする手段としての存在であつて、その稼業の善否は別として、あながち之を攻める事は無産者の苦境を察知出来ない有閑人の無理難題であります。

今日の社會は人口の大半は生活の爲に苦しんでゐるのであります、如何に公娼廢止を叫んだ所で生活の手段とする人肉の市は絶える事はありません。本章にも既に述べました如く、公娼制度のない縣下の例が明かに物語つてゐるもので、此の問題を酷評する前に先づ彼女達を法治國民として保護改善を施す可く考へねばならぬ問題であります。

仕事に差違こそあれ彼女達の生活は帝國々民として國法の保護の下に樹立されて居り、それに対する報酬を得てゐるのであるから、日常生活に於てはサラリーマンと少しの違ひはないのであります。只特殊稼業なるが故に主従關係、生活状態が一般人の注目を引くもので殊に廢娼論者に於ては特に缺點のみを捉へて酷評する前に彼女の前生活、娼妓になる動機等を考へてやる可きです。

更に娼妓は多額の金錢を借入れる事を常として居りますが、此の金錢の取引は決して強制的のものでなく、稼業許可を得てから借入れるもので、即ち警察に於て正當と認めたる上にて貸借關係が結ばれるものでありますから、密淫賣者の如く強制的に左右されて居りません。



次に、娼妓は他の華公人と違ひ、貞操を賣るから人身賣買であると主張して居ります、成程娼妓は貞操を賣つて居ります、然し娼妓と同様貞操を賣つて生活してゐる妾、私娼はどうなりませう。かつて此の問題を中心として集つた社會事業家の談話會席上で、矯風會關西支部長林歌子女史は斯様な事を申されました。「私娼は何處の國でもある」とだが私娼が何れの國にでもあるとするならば、娼妓の貞操賣買を以つて人身賣買であると言ふ事は出来ない筈でありまして、強ひて貞操賣買を以つて人身賣買なりと主張するならば私娼黙認と言ふが如き矛盾な事は言へない譯であります。内務省は此の問題に相當考慮を拂ひ、ジョンソン博士來朝の時にも、日本の公娼制度は前借金制度と貸座敷取締規則に基いてゐるもので、人身賣買ではありませんから、左様御承知の上國內の問題には觸れない様にと、言明された位でありまして、法律的にも、道德的にも娼妓制度は人身賣買に抵觸してゐないのであります。

然るに廢娼運動者は、國際聯盟に對して日本の娼妓制度は人身賣買なりとして再三報告してゐるのであります。

内務省では人身賣買にあらずと主張して居るにも拘らず歐米かぶれの婦人達は、御丁寧に理論附けて報告し、國際聯盟にお世辭を使つてゐると言つた仕末であつたのであります。

それが昭和九年頃に至つて、内務省の若手連の中に婦人達の言を是認し、人身賣買なりと主張するものが出來たのであります。

内務省は申す迄もなく日本帝國の内務省でありますから、斷じて虚言を弄する事はありません。然し若し斯くの如き事が國際聯盟に知れたならば、決して個人の意見として受取らないのであります。

我國は有史以來潔白を以つて最大の誇りとしてきました以上、軟弱な聯盟等に揚げ足を取られぬ様に注意を要す可きで之には例へ個人たりとも當局の言を尊重し誤つた言語、行動は慎む可きであります。

私達は廢娼論者の折角の氣持を疑ひたくはありませんが、政府が日本の爲主張する所を逆に宣傳するに於ては、其の眞意奈邊にあるかを再考せねばならないのであります。

又廢娼論者は、公娼廢止を以つて國際禮儀の如く考へて居りますが觀念の履き違へも甚だしいものです。眞の國際は其の國の必要な制度を排撃したり、干渉したりはしないものであつて、寧ろ相互にその特長の研究を行ひ、且つは助長し合ふべきものであります。

殊に賣淫問題では性病と言ふ恐る可き病毒が附纏ふ爲、各國共に惱んでゐるのであります。

ヒリツピンが廢娼の結果、性病が蔓延し、國民保健の問題となつて、遂に衛生局から公娼制度再設置を政府に提言したが、當時の首腦者がキリスト信者の爲許可されず、衛生局を落膽させたとの事ではありますが、遠からず再設置されるものとして我國の公娼制度を視察し、行届いた設備に驚嘆し、之程完備した制度を廢止するのは惜しい事だと言つたと言ふ事が新聞に報道されたのを見ても明白であります。

又シヤム國にも我國の制度に習ひ公娼設置論が擡頭してゐるのであります。

廢娼はキリスト教の人道論から起つたものであります。我が國の如く法律と人情の徹底した國家にはその必要はないのであります。今日に至つて尙歐米思想に捉はれてゐる事は我が國の國是を解せないもので、日本國民として恥ず可きであります。

國際聯盟の主張であつた軍縮問題にしても、我が國は世界平和の見地から聯盟と相反し、遂に脱退の止むなきに至つたもので、常に我が國は眞の世界平和を強調し、向後の憂ひなからん事を期してゐるのであります。日本こそ世界の先進國として誇るに足るものであります。國民は歐米模倣主義を排して、今日の日本文化、日本精神を世界に紹介して世界平和の基礎となす可きではありませんまいか？

然るに今日迄の國際聯盟は飽く迄も個人的であつて、之に追従を以つて誇りとしてゐた嬌風會の如きも、申す迄もなく日本主義から遠く離れてゐた爲、折角の努力が反つて非難されなければならぬ様な結果になつたのであります。

## 賣笑婦と亡國病

私娼の跋扈と其の弊害は、前項に述べた如く風紀、衛生、教育上捨て置き難い状態にあつて當局に於ても其の措置に行き悩んでゐるのであります。

設備不完全な私娼の發展は、國民の健康上重大問題で、今日文明病として恐れられてゐる肺結核の如きものも祖父母の性病が胎毒となり内昂して肺を犯かされる事が原因となつてゐる場合が多いのであります。

又老年期に入りて、結核等にかゝる人は青年時代に梅毒を受けてゐるのであります。

之は私が十二年間不治の病、の相談相手として慰安して來た實驗でありまして、醫學的な研究ではありません。

性病と結核は密接な關係を有するもので、死亡率も最も高く、文明の痛として恐れる理由もここにあります。

小兒の死亡率の如きも、三分の一は父母の梅毒から來てゐるとさへ言はれて居ります。斯様に恐しい梅毒は、大部分私娼から傳播されてゐる事は既に述べました如くであります。斯うした私娼の弊を整理したのが公娼である事は言ふ迄もありませんが、その數が人口の増加に比例しなかつた爲、私娼が生れたのであります。その後私娼は次第に其の數を増し、今日では世界を通じて解決に惱まされてゐる仕末であります。

故理學博士石川千代松氏は此の道の大斗として、重きをなしてゐた人ですが、氏は常になんとかして我が國土からそれらを壊滅せしめんと最善の方法を講じ、又種々研究されて居りましたが志ならずして臺灣で病死されました事は誠に惜しい事でありました。それに引繼いで當局も非常に苦心されて居りますが廢娼運動に押されて、制度なしに善處しやうと言ふ様な事も一時は持ち上がった様であります。之は到底出來ない相談でありました。

それは若し制度を廢止すれば悉くが密淫賣となる譯でありますから、警察犯處罰令を適用せなければならぬのであります。若し之を默認する事になりますと、内務省令を無視する事になります

から、強制檢査も干渉も出來ない譯であります。

又一部外國に於て實行されて居ります鑑札制度に致しますと、密淫賣を教唆幫助する事になり内務省令十六號警察處罰令第四條、

『本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シテ之ヲ罰ス』

に牴觸する事になります。内務省令第一條、第二項のある限り公娼に對する保護と私娼に對する取締を徹底させなければなりません。

若し公娼制度を廢止する事になれば、自然現象として私娼の彈壓が出來なくなる譯であります。斯様な事になれば自然賣淫の跳梁となつて人心を亂し、ローマ帝國の二の舞を踏む事は明な事でありませう。

古今東西を通じて、國家滅亡の因は貞操の亂脈が最大原因でありまして、我國でも現今の男女の貞操觀念が極度に低下して居りますが、一日も早く改めなければ國家の發展を著しく阻害するものであります。

## 上層階級の墮落と藝妓

近時賣淫常習者として上層階級を蝕み行く者に一番噂さの高いものは藝妓であります、今回私共の會が全國の政治家諸氏に私娼撲滅に對する意見を徵集致しました處藝妓の賣淫に對する非難の聲が相當ありました、讀者諸彦の御參考に其の一、二を掲げて見ませう

一、藝者の賣淫は全國で默認してゐる、之等が酌婦賣淫助長の事實となるものと信ず、第一に藝妓の賣淫を禁ずる事が急務と信じます

廣島縣 某縣會議員

二、御趣旨は尤も、大賛成に御座候

要は刑事、巡查が藝妓屋、待合、料理屋等に遊びに行く時代は取締は出來ず、嚴罰の前、先以て取締者を取締る可し

大垣市 某縣會議員

以上の意見を見ましても藝妓の賣淫が實證されて居りますと同時に國民の思想に如何なる影響を及してゐるかが窺はれるのであります。

元來藝妓は藝能を以つて接客する事を職分として比較的上層階級のサービスをなし藝は賣つても身

は賣らぬと言ふ立前から花柳界の女としては社會の信望も娼妓よりは高かつたのであります。

然し乍ら最近の藝妓は大部分賣淫専門であつて藝能のあるものは一部分しかないのであります、従つて人格とか權威とか言ふものは微塵もなく低下して完全に賣淫婦と言ふ代名詞を持つ様になつたのであります、此の藝妓の賣淫に就ては次の様な原因があります。

一、藝者遊びをするものは其の多くが財と權力の持主であるに反し藝妓は餘りに、斷け離れたる無産者である爲經濟力の前に屈伏する事、

一、酒宴の景意氣に誘惑されて理性を失ひ易い。

一、藝妓置屋、待合、料理屋を無制限に許可する爲營業不振から抱主が賣淫を強請する事。

一、遊興者の多くが上層階級である事と從來の習慣から料理屋、待合の取締が緩慢な爲之等の人々の賣淫安全地帯となつてゐる事

斯様な事實は茲に働く女中、酌婦にも影響し貞操を賣る事が茶飯時の如くに考へる様になつたのであります、換言すれば藝妓及營業者は密淫賣の根據となつたのであります。

而も皮肉な現象は之等藝妓の貞操を持て遊ぶものは爲政者或は大官連と言つた、所謂名流紳士達で表面では國民の指導者として自認し、裏面では藝妓を落藉して宅妾とする等、誠に以つて奇怪千萬

な生活をしてゐるものが多いのであります。

最近に於ける政界、財界等々の著名士の犯罪調査に依つて暴露されて居ります此の種の事實に依つても敢て多言を要しません。

要するに金力と、地位と遊興の自由が不道德の種を限りなく蒔いてゐるのでありませう。女性の立場から私娼の取締を強要されると一番立場に困るのは警察官であるやうですが？ その理由は藝者を侍べらして料理屋、待合遊びをする連中は政治家の中でも相當巾をきかしてゐる者が多く下級官吏の言を取り合はないと言ふ事でありませう。

此の事實に照らしても藝妓の賣淫禁止の急を切實に感ぜられるのでありまして、民間賣淫と同時に藝妓の賣淫が支配階級を墮落させてゐるかが立證されるのであります。

お茶屋、料理屋が性病薬を常備薬として買入れ、宴会席よりも寢室の多い事は何を物語るものでせう、藝を本位とする藝者は三味線の必要なく賣淫を主としてゐる點は娼妓と異なる點はないのであります。

之等は皆權威を笠に社會國家を無視する支配階級の恩典に預つて生活する不正營業者の巧みな政策であります。

古今の歴史を見ましても支配階級が此の安全地帯を利用して酒色を貪る悪風はありますが此の悪風に爲政者が耽溺する時は必ず國家は困窮の危機を招來してゐるのであります。

然も支配階級の亂行は何時の時代にも太平の末期に表はれ常に貧者と女性は奴隷扱ひを受けてゐるのでありまして明治の末期から政治家達が政權獲得の争奪を始めたに對し財閥が思惑の爲、政治家を誘導し、或は政黨擴張の爲地方官吏を買収する等々の工作がお茶屋、待合を利用し、女性を奴隷視してゐたのでありまして、その事實は既に述べました如く新聞紙上を賑わす疑獄事件の一端にても知られる事で喋々を要さない事でありませう。

支配階級の藝妓遊びは單に操行問題に止らず國法を犯す不正行爲の種を蒔くもので國家を亂す事が多く之等が國民への信賴を裏切り非難の聲となつて遂には財閥特權階級打倒の叫びともなり不祥事件の發端ともなるのであります。

料理屋、待合更に之に附隨する藝妓、女中の存在は社會生活に於ける實際上硬化せる相互の氣持を融和し親睦せしむる爲の機關として重要な役割を有するものである以上働く女性も美と情操が豊である事は必要條件でありませうが更に必要な事は職業的責任と自覺であります。

武家時代に於ける遊女は高位の客に接する機會が多く殊に太夫は武士の落人の娘が多かつた故か非

常に正義觀念が強く又氣位も高く遊女であり乍ら貞操觀念も強かつたのであります。斯の幕末物語りに出て来る横濱で有名な巖龜樓の太夫、喜遊が幕府の權威と金力を持つて持て弄ばんとしたアメリカ人の要求に切迫して遂に自害し大和撫子の操を立てた哀話に依つても窺はれるのであります。

然るに時代の變遷に伴ひ資本主義社會となり無産者出身の藝妓は金力の奴隸とよぎなくされる運命に置かれたのであります。之等は皆腐敗墮落せる特權階級の見難き副産物であります。

茲數年國家非常時の聲は全國津々浦々迄叫ばれ國民の腦裡に深く浸み込み、上下共に庶政一新に務めなければならぬ時に當り獨り上層階級の放縱は許されないのであります。

如何に高官でありませうとも國家の危機をよそに國法を無視する藝妓、酌婦の貞操を持って遊び淫蕩三昧に耽る事は國民教育上、風紀上大なる弊害の伴ふものでありますから斷乎たる處置を取る事が急務中の急務であります。

## 第五章

### 藝妓私娼に對する措置

大乗的宗教の信念より國家の情勢を眺めますと内務省令の廢止問題は單に貸座敷業者の營業問題に止まらず、既に縷々述べたる如く思想、教育、風紀、衛生は申迄もなく、立法からも國家經濟上からも又國際正義の上からも大なる問題にして、若し之を廢止するならば國家的に大きな影響を與へる事は彼のローマ帝國の實例に照して明かな事で、只一片の賣娼問題として扱ひ難く、茲に制度の存續を強調する所以であります。

私娼默認案の聲は有産階級の紳士間に興味の的となつて居りますが何故でありませう？

言ふ迄もなく金と時間に恵れた有閑人の私娼漁が大ピラで出来るからではありませんか？

試みに最近のホテル、旅館、待合等の客を見ると、その大部分は連込み客であります。

東京驛で名古屋、或は大阪行きの切符を買ひ求め着飾つた奥様や社員達に見送られて列車に乗り込んだ紳士が新橋、品川で下車してホテルや待合で桃色遊戯をしてゐる例は多過ぎる事實であります。斯様な紳士に限つて廢娼を叫び聖人氣取りをしてゐるのであります。又妻女も之に迎合して盛んに廢娼運動をやつてゐると言ふのもありますが、誠に滑稽な話で、之も輕薄な時代層の產物であります。

罪惡の中でも強盜、詐欺と言つた困つたものもありますが、然し之等は一部分で、然も物質に依つて被害は解決されますが、私娼は性病と言ふ大きな被害を與へ、多くの金錢を消費した上妻子に迄及ぼして取返しのかね事になるのであります。

遊廓の廢止を叫ぶ紳士が妻に性病を與へ、妻は性病とは知らず醫者の門を叩いて始めてそれを知り夫の操行から私娼の弊害を知つたと言ふ話があります。

之等は夫の假面の爲、却つて難を早く知り得たのでありますが、多くは性病を受けても周圍の關係上發表しないのが常でありまして、若し之を個別的に調査すれば、性病に經驗のない家はおそらく全體の二割ないかも知れません。

然も此の患者が有産階級に多い事は何を物語つて居るのでせう。言ふ迄もなく豫防設備のない藝者

高等賣淫を相手にする事が原因となつてゐるのであります。

斯様な事が放置されるならば遊廓存廢問題の騒ぎではなく性病は全國民に及び、その健康を奪ひ家庭の平和を奪ひ、經濟の破綻はもとより、男女の貞操觀念は低下して行く事は言ふ迄もありません。

又貞操觀念の墮落は正義觀念を破壊するものであります、即ち性は生物の根本的原素であつて、百八凡腦の主體でありますから、性慾の自由奔放は凡ての慾望を誘發して物質欲が旺盛となり自己の慾望を充す事を急ぐ、即ち肉體的慾望から正義人道を無視するのであります。

故に貞操觀念の墮落は正義觀念の消滅と比例して行く事を忘れてはなりません。

殊に私娼の放任は必ず民間にも喰ひ入るものであります。國民の貞操の墮落はもとより、風紀、衛生、思想上捨て置き難いものであります、そこで此の弊害の多い私娼を如何に解決するかと言ふ事が残された問題であります、私は此の問題に就て各警察を訪問し、意見を聞いた事がありますが密淫賣は檢舉しても刑事連の功績にならないので、他の犯罪と違つて餘り力を入れないのであります。それは違警罪と言ふ微罪で釋放される爲、その効果の薄い事は當然であります。

ですから之にはどうしても刑法を適用しなければ現在の儘では殆んどその解決は望まれないのであ

ります。

取締當局も私娼は經濟難時代の犠牲者であると言ふ立前から見逃して置けば彼等も生活が出来ると言ふので、成る可く、檢舉しない方法で科料位で歸してしまふのでありまして、偶に二十九日の拘留でも致しますとそうした女は仲々一條繩では監督の出来ない女共であるから巡查が非常に困ると言ふ笑へぬ事實が伴つてゐるのであります、と言つて放任して置く事は最早許されない、さりとて此の無数の賣淫を檢舉嚴罰する事は餘りにも至難な事であり、假りに歐米の如く監札制度にする事は既に述べた如く法令の矛盾が伴ひ、不可能な事で到底我が國では想像も出来ない事であります。然らば如何なる手段を以つて解決するかと申しますと、現在の制度即ち内務省令である貸座敷取締令及娼妓取締規則の適用が最も適切な方法でありませう。

それでは遊廓の擴張ではないかと言ふ議論が出るでせうが姑息な隠蔽策よりも、堂々と法的容認をして生活苦に喘ぐ無産婦人に自由と保護を與へ、その弊害を除去する事が文明先進國の取る可き手段でありまして、風紀、衛生、思想教育上現在の儘よりは數段の徹底を見ることが出来るのであります。

集團私娼に對しては、今更此の無数の者を檢舉嚴罰する事は極めて至難な事でありましてから此の儘

内務省令を適用して貸座敷として認可し遊廓同様監視と指導をなし法治國民としての生活をなさしめる事でありまして、而して從來の貸座敷よりも小規模である點から幾分酌量してその格を乙種或は二流・三流となし租税を負擔させ、衛生設備や婦女子の待遇なども強制的に改善させる事でありませう。

更に散娼に對しては、發見次第檢舉して罰金ではなく、悉く刑法を適用し、媒合者、及び男子にも同等の刑を適用する事が適切かと考へます。

今日迄の如く輕微な罰金や、男子の無罪釋放では飯の上の蠅を追ふ様なもので徹底を期する事は出来ないのであります。

此の點は藝妓にも同等に適用する事が最善の方策でありまして、殊に男子に對しては發見次第如何なる名譽職の人と雖も、識者としての資格なきものとみなして一切の公職を退職させ、罰金も普通人の數倍を課し、背徳者として再び社會に立つ事の出来ない様制裁をなす可きであります。

又媒合者であるお茶屋、料理屋も不正發見と同時に營業停止、又は禁止の嚴罰を行ひ、賣淫藝妓は監札を取り上げ娼妓監札を與へ貸座敷内にて働かせる事でありませう。



## 女給の制限と取締方法

低給なサラリーマンや、紳士の卵と言つた學生達を唯一の目當てに無數に殖へて行くのはカフェー、喫茶店でありまして全國の都市はあのあくどいネオンに塗り潰されてゐるのであります。現在女性の最も簡便な働き場所として存在し又遊蕩への第一行程として最も好都合に出來てゐるのであります。紅燈の誘惑、弊害等に就ては既に本論第二章、ネオンの蔭に踊る魔手にて述べてありますから茲では繰り返す必要はありませんが、限りなく殖へる數に對しては風紀、教育上制限を加へなければならぬのであります。

嘗て某縣當局が女給税、或は檢診を強調した事がありました。女給達は營業者の應援を得て、職業婦人を侮辱するとか、或は私達の商賣即ち、カフェー、喫茶店は文化の魁であつて大いに貢献してゐるとか申して、紅唇泡を飛ばして反駁した事を記憶して居りますが、眞面目に考へた場合此の種の營業より流す害毒は實に大きなもので純眞な青年紳士を誘惑し、其の結果、平和な家庭を亂す事が極めて多いのであります。社會的貢獻は一つとして認める事は出來ないのであります。

故に此の種の限りなき激増は單にサービスガールの増加とカフェーの存在に止らず、都會青年の墮落の原因ともなり、子女の貞操下落は惡習となつて一般女子にも及ぼして社會問題となつて居ります。風紀頹敗の根本は歐洲文化の惡産物である、カフェー、バーとさへ指摘され、街頭私娼は之等女給と、もくされてゐるのであります。遺憾乍ら今日の狀態から之を否定する事は出來得ないのであります。

けれども私達は同性として女給の内にも精神的に、肉體的に純潔を保つてゐる子女のゐる事を思ひますと、やはり一個の職業婦人として人格を認めたいのであります。

さりながら現實に此の期待を裏切る事實の餘りにも多い實例は筆者自身をして前言を否定せしめ完全な職業婦人として信を置く事が出來ないのであります。

従つて之れを刷新向上せしむる爲には營業及び女給數の制限を要求するのであります。

更に女給稼業に對しては制度を設け、第一に親兄弟の承諾、身元引受け等を完全にし、從來の如く自己の自由意志で簡單に働く事の出來ない様にする事が必要だと考へるのであります。

女給の無數に殖へた原因は無斷で家を飛び出した娘でも十人前の美貌であれば簡單に採用された爲無智な娘達は都會に憧れて若し職業がなければ女給にでもと言つた輕卒な考へから家を飛び出し

結果豫定の如く女給になると言ふ事から殖へて行くのでありまして、厳格な制度を設ければ自然問題が解消されるのであります。

更に此の面倒な手続や、制限は都會に於ける無軌道娘の更生ともなり、農村娘の憤れ、青年、少女の墮落を未然に防ぐ最善の方策ともなるのであります。

## 總括的解決手段

以上簡単に藝妓、私娼、女給に対する解決方法として私見を申述べましたが、茲で特筆して置きたい事は檢舉した女の解決であります。

従來の如く科料や拘留位では飯の上の蠅を追ふやうなもので、同じ事を繰返すだけで何等の意味をなしませんから檢舉した女は再び返さない様に保護收容所を設けて訓戒し、正業に復歸出来るものは正しき道に入らしむる様、社會事業家の援助を得て指導し、復歸の見込みなきものは娼妓稼業の手續を取らせ、貸座敷に托して稼業をなさしめるのであります。

斯様にすれば、私娼業者は多額の前借金をかけてある女を取り上げられ、その上二百圓以上の罰金或は一ヶ年以上の刑罰に處せられる事になれば經濟的にも大打撃でありますから、自然と消滅する事は明であります。

此の私娼窟で苦しめられてゐた子女は檢舉の爲め前借金が解消致しますから、それが動機となつて苦界から浮び上る事が出来るのであります。又貸座敷に廻つて働いても前借金がないから収入も倍加して、家計を助ける目的も達せられ、又自分の都合によつては何時でも廢業して、結婚生活も出来る譯であります。

又業者も、預つた女を保護し、働いた利益を五分五分位の制度にして行けば資金難からも浮び上る譯で、従つて女子の外出其他、待遇、營業も自然改良が出來、眞の機關として、社會の一部の仕事を受持つ譯であります。

私娼窟を根據として、誘拐や、周旋、客引をする不良分子の根城も崩れる譯でありますから此等も亦自然と消滅する事は言を俟たない事で勞せずして社會の淨化が計られ一般婦女子の身邊も保證されるのであります。

茲で問題となる事は賣淫の常習者を、現在の遊廓位では到底收容しきれない事で、従つて適當に擴張せなければならぬ事になるのであります。

斯くなりますと勿論小乘的な道德論者や、廢娼論者は目を丸くして反對する事は火を見るより明  
であります。然し之等は一つの汚れを取る爲、大切な晴衣をだいなしにする様なものでありますか  
ら斯様な素人細工には一切耳を傾ける必要はありません。

大正の末期から、都會の人口はとみに増加致し之に従つて賣笑婦の數も漸次増加して参りました  
事は統計上明に示されて居るのであります。が遊廓の數は一向に増へてゐないのであります、之は言  
ふ迄もなく廢娼運動の影響を受けまして、新設が許されないのみか、既設のものさへ減少させられ  
た結果であります。此の反面に私娼の増へてゐる事は申上る迄ありません。

申すまでもなく需要と供給の件はない結果でありまして、當然の歸結であります。そして多數の  
勢ひに押され、苦肉の策として黙認すると言ふが如き不徹底な結果を招來したのは皆小乘的な道德  
論や、廢娼論の副産物であります。

一家庭に於ても、家運が榮へ家族が殖へますれば、不淨場の擴張は必然の事である如く、人口が  
殖えてくれば賣笑婦の數の増加も必然の事で、之が整理はやはり貸座敷制度が最も適當である事は  
事實が證明して居ります。

現在の遊廓は廢娼運動と併行して、存娼運動が盛んになり、改善論も相當根強く叫ばれた爲、殆

んど改善の餘地のない迄に完備されましたが、今度は身賣防止の爲娼妓の缺乏となつて、營業困難  
になり、自然消滅の運命に置かれてゐる所さへあります。

その反面、女中、酌婦の名義で私娼はグン／＼羽を延して居りますから、若し制度が廢止になれ  
ば五萬の娼妓は私娼になる譯で、身賣防止は密淫賣獎勵の一助以外の何ものでもなく、なほ私娼營  
業者の間接援助であつて、社會矯風の目的は何れにあるか疑はしいものであります。

廢娼運動の方々も單なる宗教的道德論と、國際親善の心からなされた事でありませうが斯様な矛  
盾な結果にならうとは豫期してゐなかつた事でありませう、然し幹部諸氏の熱烈なる御運動には深  
甚の敬意を表する次第であります。

以上私は私の實驗と國體觀念に照して、餘りの矛盾を痛感し、憂心措く能はず國家將來の爲聊か  
愚見を弄した次第であります。

## 結 論

靜かに社會の情勢を眺めます時、私共は今日の非常時を再検討せなければならぬ必要に迫られてゐるのであります。

明治維新以來我國は世界の文化を輸入して、日進月歩の發展を遂げ、今日では世界の三大文化國の一つとして光輝を放つに至つた事は、言ふ迄もなく國民の一致協力の賜物であります。

交通機關の發達、通信の進歩は全世界を縮少し、文化生活の恩典は如何なる山間僻地にても浴する事が出来るのであつて、明治の末期より今日迄の三十年間は、特に文化日本の發展の過渡期にあつたのであります。

然し私達は無限の發展を希望すると共に、幾度か振り返つて日本國固有の郷土色に留意し、輸入された文化の統制をなさねばなりません、願れば明治初年より廿五年頃迄は、全くの設計時代であつた我國は、更に廿五年より日清、日露役を経て明治の末期迄は基礎工事時代であり、大正に入つてからは向鉢巻の所謂文化建築の全盛時代であつたのであります。

此の文明建設の材料は言ふ迄もなく海外より輸入されて居りますが、激しい文化の發展は大きな魅力となつて都會人と言はず、農民と言はず限りなく誘惑し盡したのであります。

商工業を始め教育、藝術、政治、經濟、宗教に至る各部門迄もが昂奮状態に進み、學校の亂立は教育萬能主義となり、其、凡ゆる事業團體を總立ちさせてしまひました。

人氣の焦點が終幕の一步前である事は、古今の慣ひでありまして、大正の末期には既に食傷の状態となつたのであります。

だが國民の文化陶醉は容易に醒めず互に先を争つて見苦らしい雜踏のうづに取殘されたものは、疲労と失業であつたのであります。

都會の發展は一時農村にも波及して活況を興へましたが、此の喜び以上に農村青年子女を都會に誘惑したのであります、此の農村青年の都會への流出は、又しても農村を疲弊させたのであります。

斯くして文化の發展は一部企業家以外は都會人と言はず、農民と言はず、只一時の昂奮を味つたのに過ぎなかつたのであります。

人間が味ひ得た最大の喜びと、苦しみとは終生忘れる事は出来ないと言ひますが全く其の通りで

好況の昂奮を未だ夢見て、再來を待望してゐるのが今日の國民の大半を占めてゐる考へ方ではないかと思ふのであります。

若し好況を夢見てゐる民衆がありとするならばお氣の毒乍ら、閉店した取引市場の門前に佇んでゐる様な物で、恐らく疲勞以外の收穫は得られないのであります。自然界の現象にも晴雨の變轉がある如く、社會も常に好況と不況が流轉して居り、又之に伴つて人間の運も循環して居ります以上常に幸運のみを夢見る事は出来ないのでありますから不況と云はず好況と云はず、各自の職分を忠實に踏みしめて行く所に天職があり、幸福がおとづれるのであります。

然るに自己の天職を忘れ、好況の夢を食らんとし、遂にはどん底に轉落して悲哀を味うに至り、失業者、不良青年、インチキ事業、演職、脱税、賣淫等々生きんが爲にあらゆる醜態が演ぜられ、つひに國家を今日の窮乏に至らしめたのであります。

然るに得手勝手な人々は、その責を政府當局に訊し、やれ國政の改革、やれ打倒と、當り散して居りますが、如何に政府を攻め、又政府が自力更生を力説しても、國民全般に浸透した間違つた觀念を、國民自身がかなぐり捨て、更生を計らねば、此の行詰りは打開する事は出来ないのであります。

失業問題に對しては政府も、確たる立案もない様で、各方面から色々の政策が提唱されて居りますが、本章では之に對する意見を差控へまして、主題であり又社會的にも重用問題である私娼問題の結論に及びませう。

密淫賣が限りなく猖獗し、あらゆる方面に害毒を流してゐるに拘らず、等閑に付せられてゐる事は廢娼運動の影響であり、これに就いては既に本論で述べてありますから省略致します。

且つて私が公娼と私娼の比較演説を致しました時、某新聞記者が私に「貴女はお茶屋でも經營して居られますか？」と女將でもあるかの如く質問された事がありました。

要するに此の運動は眞面目な女性や紳士學者は出来ない仕事の様に考へて、放棄されてゐるのであります。眞面目さを履き違へてゐる事も甚しいのであります。

名譽的な華美な運動にのみ喜んで身を投じ、斯様な重大な問題を放棄してをきますから、その數が毎年／＼増加して行くのであります。最近では高等教育を受けた淑女が密淫賣の群に相當多く在り益々その數が増しつゝある現状であります。

國家の細胞は極めて複雑で、凡ゆる階級と性質容貌の異なるものによつて形成された、一つの藝術と見てよいのであります。私達は此の社會藝術をよく洞察して程良く利用し、改善して行かなく

ればならないのであります。

只悛然と理想主義に突き進んで、徒らに闘争を行ひ、詰め込み主義の學問を爲し、女權論や公娼廢止と枚擧に追ない現在人には、此の微妙な藝術を味ふ事が出来なく、返つて逆に打ち壊してゐるのであります之が所謂三千年前に釋尊の觀破した、五濁惡世と言ふのでありまして小乘的な道德論や平等論で、國家の秩序が亂れ、人間が滅亡に頻すると説かれ、之を匡救するには法華の眞理に基くべしと説かれてあります。

日蓮は此の教義を提唱して、王法佛法に冥し佛法主法に合した戒壇を建立せよと叫ばれたのでありまして、佛教の中から人類階級の差別や生活の差異を識別して、貴賤各々の使命に安住の出来る様に慈悲と秩序のある社會政策を樹立せよと宣言されたのであります御在世中には遂に時期至らず三大秘法書の中に書き置かれたのであつて、日蓮没後六百年の今日こそ宗教の慈悲と眞理を社會政策に織込んで、政治の淨化を計らなければならない。所謂大乘的な宗教が、政治、教育、經濟、外交と、凡ゆる部門の指導原理となり、國政が一新されなければならない時であります。

宗教復興の聲も暗に其を意味してゐると考へますが、今日迄の宗教は只宗派的に押し立て、單に宗教の必要と復興を叫んでゐるに過ぎないのであつて、宗教の教義が具體的に働きかけてゐない事

は誠に遺憾に堪へない事でありませぬ。

要は大乗佛教の眞理（別冊國體宗教に説明）が、各階級の指導精神となつて國體を明らかにし、皇國の尊嚴と君臣、父子の道を明らかにして、國法を重じ、如何なる階級にあるものも日本國民としての信念を深めさせて生活の出來得る様に、下級社會の改革を行ひ、根本の方針を改めなければ幾度官吏の異動を行つた處で社會の淨化は計られるものではありません。

例へて言へば家屋の造作の様なもので傾いた家を直すには土臺とか柱を手入れせなければ修理が出來ないのと同様、國家の問題も階級闘争や平等論によつて、土臺石である可き勞働階級に異狀を呈し、女權論による女性の進出は家族制度と職業戦線に異狀を呈し、廢娼論によつて密淫賣が激増して社會の凡ゆる部門は混亂し、下層階級の生活は愈々困難となり、闘争に闘争が繰り返されてゐるのであります、自由とか平等とか言ふ事はユダヤ思想の流れを汲むキリスト教の小乗宗教の美名に隠れて自宗擴張を行つてゐるものに外なりません。

重臣、財閥が相次いで不慮に再會致しました事は、國家將來の爲眞に遺憾な事ではありますが、其の多くはやはり、ユダヤ思想の流れと階級闘争が支配してゐる場合が多いのであります。

又國家改造を口にする多くの人は、實業問題の如きは枝葉末説の問題で、此の非常時にと一笑

に附す傾があります。之等は植木の枯れる事をなげきながら植木を蝕む害虫の存在と驅除の方法を知らざるお氣の毒な心情でありまして、此の人達は只單に愛國とか、非常時とか言ふ言葉に翻弄されてゐるものであつて、眞に日本帝國の使命、發展の意味を會得されてゐないものと言はなければなりません。

時代は最早海外追従を過ぎて、庶政一新の必要に急迫せられてゐる折柄國民を思想的肉體的に蝕みつゝある淫猥遊墮の惡風一掃の上に本書がその多少に拘らず御参考の一部ともなり得ば幸甚の至りと存じます。——最後に一九四〇年即ち四年後に我が帝都に開催さるゝオリンピック大會のそれ迄には、國內に民間賣淫と言ふが如き不純な女性等の一人も居らぬ様調整し、日本女性の純潔と、その美しい傳統を誇り得る様全女性の自覺と、先輩諸氏の御盡力を切望致しますと同時に文才に乏しい爲本書の前後を通じ誤謬の多い事は讀者諸氏に多大の御迷惑をかけてゐる事と思ひますが此の點は幾重にも御詫び申上げて筆を擱く事にいたします。

皇紀二五九六年十一月

小 島 光 枝

昭和十一年七月七日 印刷納本  
昭和十一年十二月三日 再版發行  
昭和十二年六月三日 四版發行

「賣笑問題と女性」送料六錢  
定 價 金 六 拾 錢

不	許
複	製

著 者	小 島 光 枝
發 行 者	東京市目黒區中目黒一ノ七五三 森 本 政 一
印 刷 者	東京市小石川區表町六十七番地 宮 川 辰 信
發 行 所	東京市目黒區中目黒一ノ七五三 大 日 本 更 生 社 振替東京一一二六八五番
發 賣 所	東京市新橋一ノ四・復興ビル 大 日 本 更 生 社 出 版 部 電話銀座一六三・四七一番





